

令和7年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書

令和8（2026）年9月

加須市教育委員会

目次

1	はじめに.....	1
2	点検及び評価の基本方針.....	1
	（１）目的	1
	（２）評価対象.....	1
	（３）対象期間.....	1
	（４）実施方法.....	2
3	基本目標の達成度評価.....	3
4	学識経験者の意見等.....	5
5	各施策の点検・評価.....	6
	基本目標１ 自ら学ぶ力と確かな学力を育成します	6
	基本目標２ 豊かな心を育む取組を推進します	21
	基本目標３ 安全で安心な学校給食の提供と健やかな体の育成を推進します	27
	基本目標４ 質の高い教育のための環境づくりを推進します	33
	基本目標５ 家庭や地域で健やかな子どもを育む取組を推進します	38
	基本目標６ 生涯にわたる学びの支援や芸術・文化の振興を図ります	42
6	おわりに.....	51

1 はじめに

加須市教育委員会では、平成27年12月に制定した「加須市人づくり宣言～教育大綱～」に掲げる3つの市民の姿の実現を目指し、これからの時代にふさわしい本市の教育を総合的かつ計画的に推進するため策定した「第2次加須市人づくりプラン」に基づき、「家族・地域の絆を大切に、生きる力を醸成する」を基本理念として、7つの基本目標、26の施策を位置づけ、加須市の教育行政を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

教育行政の推進にあたっては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、毎年度、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しております。

※この点検及び評価は、本市の行政マネジメントサイクルツールである「加須やぐるまマネジメントサイクル」に基づく、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、見直し（Action）のPDCAサイクルにより、基本目標の施策ごとに設定した目標指標の実績等を用いて実施します。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の基本方針

（1）目的

加須市教育委員会が住民への説明責任を果たし、効果的な教育行政を推進するため、自己点検評価を行います。

（2）評価対象

加須市人づくりプランに掲げる基本目標の施策を対象とします。

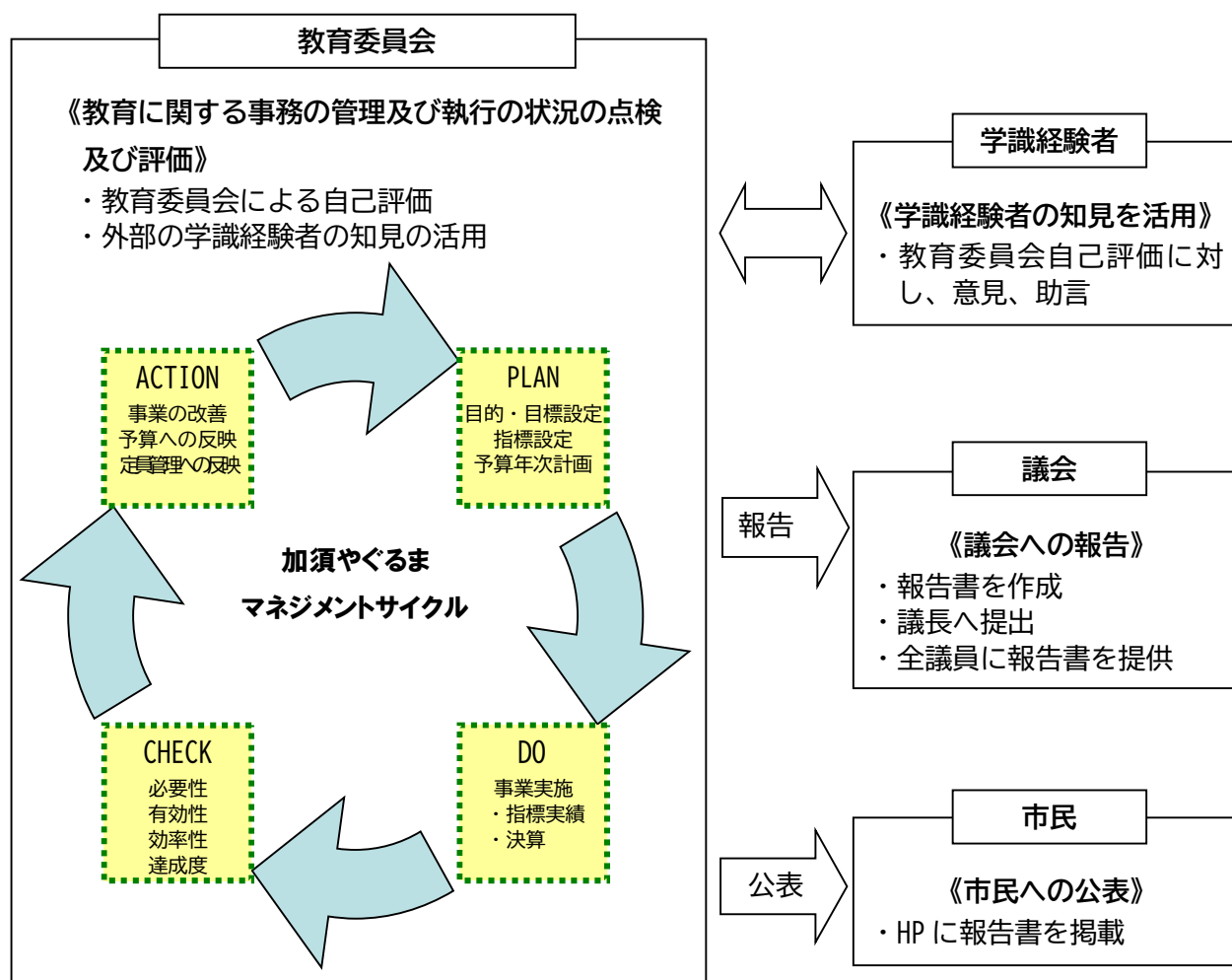
（3）対象期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(4) 実施方法

総合振興計画における評価基準を準用し、施策ごとに設定した目標指標の実績に基づき、達成度について自己評価を行うとともに、その評価を踏まえ、今後の事務の管理及び執行の方向性、改善策について検討しました。

なお、令和7年度の点検・評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用しました。



外部評価をいただいた学識経験者の方は、次のとおりです。(敬称略)

荻原 孝之（おぎわら たかゆき）氏 平成国際大学教職支援センター特任教授

駒宮 一彦（こまみや かずひこ）氏 前加須市立教育センター所長（令和3～7年度）

3 基本目標の達成度評価

総合振興計画における評価基準を準用し、基本目標の達成度評価を行いました。

【達成度評価の状況】

※ 市長部局が所管する分野を除く

目標	達成度 評価	区分	目標を 達成	概ね 達成	やや 遅れている	大幅に 遅れている	合計
基本目標 1 自ら学ぶ力と確かな学力を育成します	やや達成で きなかった	指標数	7	2	3	0	12
		割合	58.3%	16.7%	25.0%	0.0%	－
基本目標 2 豊かな心を育む取組を推進します	達成できな かった	指標数	0	1	1	3	5
		割合	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	－
基本目標 3 安全で安心な学校給食の提供と健やかな体の育成 を推進します	やや達成で きなかった	指標数	0	4	2	0	6
		割合	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	－
基本目標 4 質の高い教育のための環境づくりを推進します	概ね達成で きた	指標数	3	2	1	0	6
		割合	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	－
基本目標 5 家庭や地域で健やかな子どもを育む取組を推進し ます	達成できな かった	指標数	1	0	2	1	4
		割合	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	－
基本目標 6 生涯にわたる学びの支援や芸術・文化の振興を図 ります	やや達成で きなかった	指標数	5	0	4	0	9
		割合	55.6%	0.0%	44.4%	0.0%	－
基本目標 7 スポーツ・レクリエーションの力で元気な市民と 活力ある加須市をつくります	－	指標数	0	0	0	0	0
		割合	－	－	－	－	－
合 計		指標数	16	9	13	4	42
		割合	38.1%	21.4%	31.0%	9.5%	－

評価対象外の指標

No	基本目標	目標指標	理由
s4	基本目標 1	「授業以外に月～金で1日に どれくらい勉強しますか」に 「2時間以上」と答えた児童 生徒の割合	令和4年度埼玉県学力・学習状況調査におい て、指標の根拠になる「授業以外に月～金で 1日にどれくらい勉強しますか」という質問 内容がなくなったため

※ 市長部局が所管する分野の指標

No	基本目標	目標指標
s33	基本目標 5	要見守り世帯のうち定期的な見守りの必要がなくなった世帯の割合
s34	基本目標 5	保育所の待機児童数
s35	基本目標 5	学童保育の待機児童数
s46	基本目標 6	人権啓発研修会等への参加者数
s48	基本目標 7	成人者の週1回以上スポーツをする人の割合
s49	基本目標 7	ウォーキング大会の参加者数
s50	基本目標 7	体育館、運動公園施設の年間利用者数
s51	基本目標 7	全国・関東大会等誘致数、開催数
s52	基本目標 7	女子硬式野球観客数

< 参考 >

【基本目標の達成度評価基準】

評価	達成度評価基準
計画どおり達成できた	基本目標を構成する全ての目標指標において達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」であった。
概ね達成できた	目標指標の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった目標指標数の割合が 80%以上であった。
やや達成できなかった	目標指標の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった目標指標数の割合が 80%未満であった。
達成できなかった	目標指標の達成度評価が「目標を達成」又は「概ね達成」となった目標指標数の割合が 50%未満であった。

【目標指標の達成度評価基準】

評価	達成度評価基準
目標を達成	当該年度に実施すべき取組みを予定通り、計画的に行い、施策実施による効果が表れた。 「効果が表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の 100%以上に達し、当該年度の目標を達成した。
概ね達成	当該年度に実施すべき取組みを円滑に行い、施策実施による効果が概ね表れた。 「効果が概ね表れた」とは、成果指標の実績値が目標値の 80%以上に達したものをいう。
やや遅れている	当該年度に実施すべき取組みを行ったものの、施策実施による効果が小さかった。 「効果が小さかった」とは、成果指標の実績値が目標値の 80%未満となったものをいう。
大幅に遅れている	何らかの課題があり、事務事業が滞ってしまっており、施策実施による効果が表れなかった。 「効果が表れなかった」とは、成果指標の実績値が目標値の 50%未満となったものをいう。

4 学識経験者の意見等

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項」の規定に基づき、教育に関する学識経験を有する方の知見を活用するため、令和7年度の取組状況について、平成国際大学教職支援センター特任教授荻原孝之氏及び前加須市立教育センター所長駒宮一彦氏からご意見等をいただきました。

<総括的な意見等>

- 昨年度までの報告書では、各基本目標の指標数や各事業の指標について、疑問が残るものがありました。しかし令和7年度の計画の見直しが行われたことにより、それぞれの基本目標に対する各施策の数値目標が整理され、適切なものが多くなったと思います。また、「指標」、「指標の根拠等」、「決算年度の取組内容及び評価に対する分析」「次年度の取組内容」「課題」等も、より具体的になり、わかりやすくなったと思います。
- 第2次加須市人づくりプランの最終年度である令和7年度の評価結果を見ると、教育委員会が所管する基本目標1から6において、「概ね達成できた」が1、「やや達成できなかった」が3、「達成できなかった」が2という、厳しい達成度評価でした。しかしながら、個々の指標でみると、全指標数42のうち、評価として「目標を達成」及び「概ね達成」をあわせると59.5%という結果でした。約6割の指標で良い成果が得られたということです。様々な制約があったコロナ渦の時期を含めた5年を考えると、まずまずの結果であったと思います。令和8年度は、第3次プランに基づき、各施策において、目標達成のための新たな取組が計画されています。計画が確実に実行出来るよう、進捗状況を確認するとともに、年度途中での見直しを図るなどし、取組の確実な履行に努め、令和7年度の評価より一歩前進できることを期待します。

各施策に対していただいたご意見は、次ページからの「5 各施策の点検・評価」の中で<学識経験者の意見等>として掲載しています。

5 各施策の点検・評価

※ 基本目標7及びその施策は、市長部局が所管する分野であるため除く

基本目標1 自ら学ぶ力と確かな学力を育成します

施策1 幼児教育の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

生涯にわたる人格形成の基礎を培うため、質の高い幼児教育を提供します。

公立幼稚園の全13園で引き続き3年保育を実施します。

保育所・認定こども園・幼稚園・小中学校・家庭・地域社会が一体となった地域密着型教育を推進します。幼児同士の交流の場や合同の研修会を計画的に開催し、併せて公立幼稚園、保育所間では人事交流を実施することにより、市全体の幼児教育の質の向上を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s1	1・目標を達成	指標	市立幼稚園入園待機児童数							・産休・育休代員（会計年度任用職員、幼稚園教諭）確保のため、広報やHPを活用する。 ・園児数、学級数、特別な配慮を必要とする園児数に応じて、会計年度任用職員を配置する。
		指標の根拠等	・各年度における待機児童数（5月1日調査報告数）						（人）	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		0	0	0	0	0		
		実績	0	0	0	0	0	0		
		・園児数、学級数、特別な支援を必要とする園児数に応じ、職員を配置した。 ・目標を達成したのは、適切に職員を配置したことで市立幼稚園で保育を必要とする幼児全員の受け入れができたためである。								
		課題							・加須市立幼稚園再編計画に基づき再編を検討する中で、待機児童が生じないようにする必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s2	3・やや遅れている	指標	預かり保育を実施する市立幼稚園の数							・各園において預かり保育が安全に実施できるよう、次年度の預かり保育の利用意向を調査し、体制を整備する。 ・長期休業日中の預かり保育が円滑に受入れできるようにするため、利用意向と調査し、実施園や、受入れ体制を検討していく。
		指標の根拠等	・加須市立幼稚園の預かり保育に関する規則に基づき、預かり保育を実施した市立幼稚園数						(園)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		13	13	13	13※	13※		
		実績	9	8	9	11	8	8		
		・休園中の5園を除く市立幼稚園8園で、預かり保育を実施した。 ・長期休業日中の預かり保育を、加須市立花崎北幼稚園において試行的に実施した。 ・子育て支援をするために、保護者の就労時間により預かり保育料の無償化の認定を申請・承認した。 ・目標に及んでいないのは、休園中の5園では預かり保育の実施がないためである。								
		※令和6年度から5園休園中								
課題										
・花崎北幼稚園1箇所で開催している長期休業日中預かり保育の今後の実施体制を検討する必要がある。										

<学識経験者の意見等>

○ 園児数、学級数、特別な支援を必要とする園児数に応じ、適切に職員を配置するなどして、市立幼稚園で保育を必要とする幼児全員を受け入れたことは素晴らしいと思います。また、それが継続的に行われていることについて、関係各課、関係者の努力に敬意を表します。今後も計画的に、産休・育休代員（会計年度任用職員、幼稚園教諭）を確保するなどして、待機児童が生じないようにして欲しいと思います。また、休園中の5園を除く市立幼稚園8園で、預かり保育を実施したことは素晴らしいと思います。休園中の5園では預かり保育を実施していないため、評価を「やや遅れている」にしているようですが、開園中のすべての園で預かり保育を実施していることは「目標を達成」の評価でいいのではないかと個人的には思います。さらに、長期休業日中の預かり保育を、加須市立花崎北幼稚園において試行的に実施したようです。この試行結果を検証し、益々多様化するであろう保護者のニーズに積極的に対応していただきたいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ 待機児童が生じないように、適切な職員配置を行うと共に、必要な人員体制の確保に努める。
- ・ 預かり保育の8園全園実施を継続するため、安定的な実施体制を確保する。また、現在、加須市立花崎北幼稚園1園で実施している長期休業日中の預かり保育については、保護者のニーズや利用状況等を踏まえ、実施体制を検討する。

施策2 一人ひとりを伸ばす教育の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

子どもたちの自ら考え自ら学ぶ力を育てるため、市独自の加配教員による個に応じた指導など、指導方法の工夫・改善による教育内容の充実を図り、一人ひとりの学力を確実に伸ばす教育を推進します。

小学校に外国語活動指導助手を配置し、体験的な学習を通してコミュニケーション能力の素地を養うとともに、中学校に外国語指導助手を配置し、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を養い、国際社会に対応できる人材を育成します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析						令和8年度の取組内容	
s3	2・概ね達成	指標	「埼玉県学力・学習状況調査」の県平均正答率に対する市の平均正答率（上段：小学校、下段：中学校）						・児童生徒の探究的な学びを推進するため、宇宙×食農×STEAM教育を掛け合わせた「宇宙STEAM教育」として、ワークショップや有識者会議を実施する。 ・教員の英語力を向上させるため、児童生徒向けに加え、教員向けイングリッシュサマーキャンプを実施する。 ・園児に英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせるため、各園にALTを5回ずつ派遣する。 ・中学校生徒の英語力を向上させるため、SCBT受検を含めた実用英語技能検定の検定料助成を実施する。 ・英語の学力を向上させるため、各種調査を踏まえたICTを活用した調査問題を作成し、活用を推進する。 ・児童生徒の学力向上を図るために、CBTによる加須市チャレンジテストや、「加須まなびTime」を実施する。 ・各校の学力課題の解決を図るために、学力分析シートを活用し、分析結果に基づいた授業改善や学習指導の充実に取り組む。 ・児童生徒一人ひとりの学力の定着・向上を図るために、研究委嘱校の成果を全校に広げる。 ・「学力向上フォーラム」、「学力を伸ばした教員の指導法の紹介」を実施し、効果的な指導方法を学ぶ機会を設定する。
		指標の根拠等	・市平均正答率÷県平均正答率×100 (%)						
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）	
		目標		100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	101.0 101.0	101.0 101.0	
		実績		98.0 96.0	97.0 95.0	95.1 92.1	97.6 96.1	98.2 95.1	
		・学習指導の改善と児童生徒の学力向上を図るため、研究委嘱校5校による研究発表、加須市チャレンジシートの活用及び加須市チャレンジテスト（CBT）を実施した。							
		・各種学力調査の分析を授業改善につなげるため、市教委による分析をもとにした指導方法の工夫を、「学力向上フォーラム」として学校へ周知した。また、教員のよい取組を市内へ広めるため、学力調査で大きく学力を伸ばしている教員にヒアリングを行い、リーフレットを作成し周知を行った。							
		・児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導を実現するため、教育活動補助員を配置し、チームティーチングや少人数指導による授業を実施した。							
・中学生の学力向上と学習習慣の定着を図るため、週休日を活用した中学生学力アップ教室「加須まなびTime」を市内6会場で実施し、205人の生徒に学習機会を提供した。									
・外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、小学校に外国語活動指導助手（AFT）、中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、チームティーチングによる授業を実施した。									
・目標に及んでいないのは、チャレンジテストや少人数指導等の取組を実施したものの、小学校98.2%・中学校95.1%と目標値を下回る結果となったためである。									
課題									
・各校が分析結果に基づき、自校の実態に応じた課題解決に向けた取組を一層推進する必要がある。									
・学力向上に向けた取組の成果を検証し、継続的な授業改善につなげる必要がある。									

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価(1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている)

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s4	評価対象外	指標	「授業以外に月～金で1日にどれくらい勉強しますか」に「2時間以上」と答えた児童生徒の割合（上段：小学校、下段：中学校）							・児童生徒の学習習慣の定着を図るために、「加須まなびTime」を実施し、家庭学習につながる学習機会を提供する。
		指標の根拠等	・埼玉県学力・学習状況調査「授業以外に月～金で1日にどれくらい勉強しますか」に「2時間以上」と答えた児童生徒数÷児童生徒数×100 (%)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		30.0 40.0	33.0 43.0	37.0 46.0	40.0 50.0	40.0 50.0		
		実績		28.0 41.0	－	－	－	－		
		・中学生の学力向上と学習習慣の定着を図るため、週休日を活用した中学生学力アップ教室「加須まなびTime」を市内6会場で実施し、205人の生徒に週1回、2時間の学習機会を提供した。 ・令和4年度埼玉県学力・学習状況調査において、指標の根拠になる「授業以外に月～金で1日にどれくらい勉強しますか」という質問内容がなくなったため、評価対象外とした。								
課題							・各校の実態に応じて、家庭と連携した学習習慣の定着に向けた取組を推進する必要がある。			

<学識経験者の意見等>

- 「研究委嘱校による研究発表」、「加須市チャレンジシートの活用」、「加須市チャレンジテスト(CBT)実施」、「教育活動補助員を配置」、「加須まなびTimeの実施」等、加須市独自の様々な取組、素晴らしいと思います。しかし、残念ながら小中学校とも目標を下回る結果になっています。次年度に向けては、児童生徒の探究的な学びを推進するため、宇宙×食農×STEAM教育を掛け合わせた「宇宙STEAM教育」として、ワークショップや有識者会議を実施するという事です。新学習指導要領の内容を先取りするような取組に大いに期待します。今後、これまでの取組を検証するなどして改善をし、一人ひとりを伸ばす教育の推進に努めていってほしいと思います。
- 指標に対し、小学校では、ここ5年間で最も良い数値となっていることが評価できます。これは、加須市チャレンジシートの活用や加須市チャレンジテストの継続的な取組、指導方法の工夫の学校への周知(学力フォーラム)、こどもの学力を伸ばしている教員の取組をリーフレットにしたの普及等、教育委員会(学校教育課)が主体となった取組の成果が現れつつあるのではないかと思います。今後は、正答率が高い学校の取組や他市における成果の見られた取組を紹介したり、推奨したりするなど、さらなる各学校の学力向上に向けた取組を積極的に推進していただければと思います。一方、中学校においては、数値にあまり変化が見られませんでした。学力の向上は、一朝一夕に図ることは出来ませんが、各中学校において、教育委員会(学校教育課)が主体となった一つ一つの取組が生かされているか否かの検証が必要かと思います。さらに、各学校においては、自校生徒の正答率をとおして各教科における自校の課題を明確にするとともに、学力調査対象教科担当の教員のみならず、全教員がそれを理解し、全校で取り組む姿勢を推奨していくことがまず大切であると思います。そして、各学校が課題解決に向け、対象教科で、またそれ以外の教科で具体的にどのような取組をしていくのかだけでなく、取り組んだ結果の成果と課題についても教育委員会として把握していくことが必要であると思います。
- 令和8年度において、「宇宙STEAM教育」の推進、「教員向けイングリッシュサマーキャンプ」、「幼稚園へのALTの派遣」等の取組が計画されています。これらの取組が児童生徒の学力向上につながることを期待します。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・こどもたちの自ら考え、自ら学ぶ力を育てるため、引き続き、教員の指導力向上のための研修を充実させるとともに、授業における課題設定や発問、対話、振り返り等の指導方法の改善を進めることで、学習指導の一層の充実を図る。
- ・少人数指導によるきめ細やかな学習支援を継続するため、各校の実態に応じて、引き続き教育活動補助員を効果的に配置する。
- ・児童生徒の学力の定着状況や学習上の課題を明らかにし、授業改善につなげるため、全国及び県の学力・学習状況調査の調査結果の検証を進めるとともに、課題解決のための授業改善のポイントや、学力を伸ばした教員の指導方法を共有できる動画を作成し、教員の指導力向上に努める。
- ・外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成するため、「イングリッシュサマーキャンプ」や「英語検定検定料助成と対策講座」、「幼稚園ALT訪問」など、英語教育に係る取組の一層の充実を図る。
- ・STEAM教育の視点を取り入れた「加須市宇宙STEAM教育」を推進するため、有識者委員会を設置し、ワークショップの検証、教科横断的なカリキュラムの開発等の協議を進める。

施策3 教職員の資質能力の向上

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

教職員研修の充実や指導主事による学校訪問により、教育課程や学習指導、その他教育活動に関する専門的事項についての指導・助言を行い、教職員の指導力の向上と学校教育の充実を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s5	1・目標を達成	指標	「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」に「行っている・よくしている」と答えた教職員の割合							・教職員の資質・能力の向上を図るために、教育課程検討委員会や各種研修会を実施する。 ・教職員の授業改善を推進するために、計画訪問や要請訪問を実施し、学校の実態に応じた指導・助言を行う。 ・「学力向上フォーラム」、「学力を伸ばした教員の指導法の紹介」を実施し、効果的な指導方法を学ぶ機会を設定する。 ・実践的な指導力の向上を図るために、研究委嘱校の研究成果を市内へ広める。
		指標の根拠等	・全国学力・学習状況調査 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」に「行っている・よくしている」と答えた教職員数÷教職員数×100 (%)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		75.0	78.0	82.0	85.0	85.0		
		実績		73.0	58.9	100.0	100.0	100.0		
		・教職員の指導力向上を図るため、計画訪問を33回、要請訪問を62回実施し、研究授業や校内研究等を通じて具体的な指導・助言を行った。 ・教職員の実践的な指導力の向上を図るため、研究委嘱校6校（園）による研究発表・公開保育を実施した。 ・若手教員の指導向上を図るため、指導主事による初任者訪問を35回、2年次教員訪問を27回実施し、授業改善や教員としての資質向上に向けた指導・助言を行った。 ・学校における人権教育の充実を図るため、学校人権教育計画訪問を10回実施し、幼稚園及び小・中学校における人権教育の推進を支援した。 ・目標を達成したのは、要請訪問や研究委嘱による実践的な研修を継続的に実施したことで、全教職員が授業研究等に取り組む体制が定着したためである。								
		課題 ・教職員のキャリア段階や、教育課題に応じた実践的な研修を継続して推進していく必要がある。								

<学識経験者の意見等>

- 令和8年度埼玉県公立学校教員採用選考試験の倍率は、小学校で1.6倍、中学校で3.2倍（教科によっては2倍を切っている。）となっており、前年度を下回る倍率になっています。教員の資質能力の確保に影響があると個人的には考えています。「教員を育てる」という意識が重要だと思います。そのような中、加須市教育委員会では、「計画訪問、要請訪問での指導・助言の実施」、「研究委嘱校（園）による研究発表・公開保育の実施」、「初任者訪問、2年次教員訪問の実施」などを通して、授業改善や教員としての資質向上を図っています。その結果、「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」の問いに対して「行っている・よくしている」と答えた教職員数が100%に達しています。素晴らしいと思います。今後も、「教育課程検討委員会や各種研修会の実施」、「計画訪問や要請訪問の実施」や研究委嘱校の研究成果を様々なかたちで市内に広めるなどして、教職員の資質能力の向上につとめ、教員を育てていただきたいと思います。
- ここ数年、指標に対し、実績数値が100であることは素晴らしいと思います。これは、計画訪問・要請訪問・初任者や2年次教員訪問・教育センター主催の研修会等、教員の学ぶ機会が多く保障されているからではないかと思います。ただし、研修を行っている・よくしているということは資質能力の向上を図る上で大切な事ですが、それをもとに、各教員が自分自身の授業改善、普段の教育活動に生かしたかが重要です。それらを自己評価させるなど資質向上が図られた否かを確認する取組があっても良いかと感じます。今後も、教員にとって学びがいのある訪問や質の高い研修の実施等が望まれます。さらに、経験年数やキャリア段階に応じた研修機会を保障し、

教員間に研修機会の差が生じないよう配慮していただきたいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・教職員の資質能力の向上を図るため、引き続き、年次研修をはじめとするキャリア段階に応じた研修や、専門性を高めるための研修会の充実を図るとともに、保・幼・小・中の教職員が保育・授業の参観や研究協議を通して、幼児期から中学校までの成長のつながりを理解し、各発達段階の指導に生かすことのできる研修を推進する。
- ・引き続き、授業研究を中心とした研究発表や公開保育を実施するとともに、研究協議等を意図的に設定し、教員一人ひとりが自己の実践を振り返り、成果と課題を明確にすることで、教員の指導力の向上を図る。
- ・全国、埼玉県学力・学習状況調査の結果をもとに自らの指導を振り返り、学校全体で授業改善を進めるため、結果の分析を生かした「加須市チャレンジテスト」をC B Tで実施する。チャレンジテストの結果から、成果と課題をさらに分析し、次の学力・学習状況調査を見据えて指導方法を改善する取組を支援する。

施策4 ICTを活用した教育の推進

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、1人1台端末をはじめICTを効果的に活用した授業実践をととして、児童生徒の確かな学力の向上と情報活用能力の育成を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s6	2・概ね達成	指標	ICTを活用して効果的な指導ができる教員の割合							・教員のICTを活用した指導力を図るために、ICT教育支援に係る定期訪問を実施し、各校の実態に応じた、指導・助言を行う。 ・教員のICT活用の充実を図るために、ICT支援員による授業支援を実施する。 ・ICTを活用した授業改善を推進するために、ICT活用推進校の実践事例等を「かぞ学びDX」として研修用動画を作成し、オンデマンド配信する。
		指標の根拠等	・学校に置ける教育の情報化の実態等に関する調査 「ICTを活用して効果的な指導ができる」に「できる」又は「ほぼできる」と答えた教員数÷教員数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		90	95	100	100	100		
		実績		84	81	82	87	87		
		・教員のICT活用能力の向上を図るため、ICT活用推進校として新たに4校（礼羽小、高柳小、豊野小、加須北中）を指定し、その実践事例を市内小・中学校に発信した。								
		・授業におけるICT活用の充実を図るため、学習用タブレット端末8,604台を更新し、児童生徒がICTを活用して楽しく学べる環境を整備した。								
		・ICT教育を継続的かつ計画的に推進するため、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする「第2次加須市学校ICT活用推進計画」を策定し、今後の取組方針を定めた。								
・目標を概ね達成したのは、ICT教育支援に係る定期訪問を1校につき年2回実施し、授業者へ効果的な活用について支援・助言を行ったことで、教員がICTを活用した授業を展開できるようになったためである。										
課題										
・生成AIの校務利用に関するガイドラインや指針等の作成に向けた検討を進める必要がある。										

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s7	1・目標を達成	指標	ICTを活用して情報活用能力を発揮できる児童生徒の割合							・ICTを活用した学習環境の充実を図るために、学習用タブレット端末の適切な管理を行う。 ・ICTを活用した授業改善を推進するために、ICT活用推進校の実践事例等を「かぞ学びDX」として研修用動画を作成し、オンデマンド配信する。
		指標の根拠等	・児童生徒の情報活用能力に関する調査 「ICTを活用して情報活用能力を発揮できる」に「できる」又は「ほぼできる」と答えた児童生徒数÷児童生徒数×100（上段：児童の数値 下段：生徒の数値）						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		65 70	70 75	75 80	80 85	100 100		
		実績		97 94	96 99	99 98	97 100	99 99		
		・児童生徒の情報活用能力を育成するため、共同調達により学習用タブレット端末8,604台を更新するとともに、ICT活用推進校を新たに4校指定し、その実践事例を市内小・中学校に発信した。 ・ICT教育を継続的かつ計画的に推進するため、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする「第2次加須市学校ICT活用推進計画」を策定した。 ・目標を達成したのは、授業で活用する機会を多く持ち、児童生徒が端末を扱う技能が向上したためである。								
		課題 ・第2次加須市学校ICT活用推進計画に基づき、児童生徒の情報活用能力の育成に向けたICT環境の整備や、教職員への支援を継続して行う必要がある。								

<学識経験者の意見等>

- 国による「GIGAスクール構想」の実施により、児童生徒1人1台の端末の配布と学校の高速大容量通信ネットワークの整備が行われました。今後は、「教員のICT活用能力の向上」、「児童生徒の情報活用能力を育成」等が重要になってきます。そのような中、加須市教育委員会では、「ICT活用推進校の指定と実践事例の発信」、「学習用タブレット端末の更新」、「令和8年度から令和12年度までを計画期間とする『第2次加須市学校ICT活用推進計画』の策定」などに取り組みました。その結果、「ICTを活用して効果的な指導ができる」に「できる」又は「ほぼできる」と答えた教員数が増加したり、「ICTを活用して情報活用能力を発揮できる」に「できる」又は「ほぼできる」と答えた児童生徒数がほぼ100%になっています。素晴らしいと思います。今後も、「第2次加須市学校ICT活用推進計画」に基づき、児童生徒の情報活用能力の育成に向けたICT環境の整備や、教職員への支援を継続して行ってほしいと思います。
- 現在、ICTを活用した学習は必要不可欠であり、より推進していく必要があります。そのような中、「ICTを活用して効果的な指導ができる教員」、「ICTを活用して情報活用能力を発揮できる児童生徒」のどちらも、年々その割合が100に近づきつつあったり、100になっていたりする現状である点は、大変素晴らしいと思います。これは、教育委員会がリーダーシップを発揮し、ハード面においてはタブレット端末の更新や修理等を適正に管理し、つねに活用できる環境を整えていること、また、ソフト面においては「第2次加須市学校ICT活用推進計画」をもとに学習活用を推進している賜物であると思います。さらに、担当指導主事や教育専門員が直接学校訪問し、ICTを効果的に活用した学習の在り方についての指導・支援を図っていることもICT活用推進の一助になっていると思います。令和8年度には、ICT活用推進校の実践事例等が研修用動画として、配信するとの取組が計画されており、より一層ICT活用推進が期待されます。注意しなくてはならない点としては、ICTを効果的に活用することが大切であり、ICTを活用すること自体が目的となってしまうはいけません。例えば、文字をノートに書くことや話し合ったり、みんなの前で発表したりする事が効果的で、大切な場面があります。これら不易の部分については、ぜひ、様々な機会を捉えて、教育委員会から発信していただきたいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・児童生徒の確かな学力の向上と情報活用能力の育成を図るため、令和8年3月に策定した第2次加須市学校ICT活用推進計画に基づき、ICTを効果的に活用し、一人ひとりの学習状況に応じた学びと、他者と意見を交わしながら課題解決に取り組む学びを一体的に推進するとともに、必要な情報を適切に選択し、活用・発信する学習活動の充実を図る。
- ・教職員がICTを授業で効果的に活用できるようにするため、ICT活用推進校の実践事例等を市内の小中学校で共有するための研修の一層の充実を図り、効果的な指導方法の実践を各学校へ広げる。
- ・教職員がICTを活用した授業づくりを学べるようにするため、授業実践例やクラウドを活用した情報共有の方法等をまとめた「かぞ学びDX」をオンデマンドで配信し、実践的な研修の一層の充実を図ることで、各学校における授業改善を支援する。

施策5 特別支援教育の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

特別支援教育に対するニーズとその多様性の高まりに対応するため、特別支援学級や通級指導教室の開設、指導内容の充実を図ります。

通常の学級に在籍している特別な支援が必要な子どもたちに、個々の教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援体制の充実を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s8	3・ やや遅 れている	指標	ことばの教室（構音障害）修了者の割合							・構音障害のある児童への適切な支援を図るために、難聴・言語障害通級指導教室の適切な運営及び支援体制の充実を図る。 ・特別支援教育の充実を図るために、就学時健康診断等をおして、保護者への情報提供を行い、早期からの就学相談を推進する。 ・教職員の専門性の向上を図るために、言語聴覚士等による研修を実施する。 ・ことばの教室担当者の指導力向上のために、担当者研修に加え、設置校へ言語聴覚士を派遣し、指導法の改善に向けた支援を行う。
		指標の根拠等	・ことばの教室(構音障害)修了者÷ことばの教室(構音障害)通級者×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		95	95	95	95	95		
		実績	62	53	57	62	60	40		
		・構音障害のある児童に適切な指導・支援を行うため、難聴・言語障害通級指導教室「ことばの教室」を運営について、研修会等を通じて担当教員への計画的な指導・助言を行った。 ・通級指導の希望者が増加したため、7校（加須小、三俣小、騎西小、鴻巣小、大根東小、原道小、加須平成中）に「ことばの教室」を設置し、支援体制の充実を図った。 ・障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うため、障がい児介助員を小学校に50人、中学校に14人配置した。 ・目標に及んでいないのは、年度当初の構音障害の児童数が98名、そのうち言葉の教室を修了した児童が39名であり、年度をまたいで継続指導となる児童生徒もいたためである。								
		課題								
		・構音障害のある児童生徒への適切な支援に向けて、通級指導教室の充実及び教職員の専門性の向上を推進する必要がある。								

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s9	1・ 目標を達成	指標	特別な配慮を要する児童・生徒への支援率							・医療的ケア等、特別な配慮を要する児童生徒への適切な支援を図るために、看護師、准看護師や障がい児介助員を配置する。 ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を図るために、特別支援学級や通級指導教室の適切な運営及び教育環境の整備を行う。 ・日本語指導助手の指導時間を、1日7.5時間に拡大する。 ・外国籍児童生徒の交流を深め、日本語指導を充実させるため、「夏休み日本語教室」を実施する。
		指標の根拠等	・障がい児介助員の配置人数÷障がい児介助員の必要人数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		100	100	100	100	100		
		実績	100	100	100	100	100	100		
		・障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うため、障がい児介助員を小学校に50人、中学校に14人配置した。								
		・特別な支援を必要とする児童生徒に適切な指導・支援を行うため、特別支援学級を30校、通級指導教室を7校に開設し、適切な運営に努めた。								
		・目標を達成したのは、各校の実態に応じて障がい児介助員を配置し、特別支援学級・通級指導教室の計画的な開設と適切な運営を行うことで、特別な配慮を要する児童生徒にニーズに応じた支援をすることができたためである。								
課題										
・引き続き、特別な配慮を要する児童生徒の教育的ニーズに適切に対応するため、支援体制の充実に向けた教職員の研修や、必要な人材の確保を行う必要がある。										

<学識経験者の意見等>

- 特別支援教育に対するニーズとその多様性が高まり、特別な支援が必要な児童生徒たちに、個々の教育的ニーズに応じた、きめ細やかな支援体制の充実を図ることが求められています。そのような中、加須市教育委員会では、「特別支援学級の新たな開設」、「『ことばの教室』を新たな開設」、「『ことばの教室』担当教員への研修会の実施」、「教職員の専門性の向上を図るための、言語聴覚士等による研修の実施」、「『ことばの教室』設置校への言語聴覚士の派遣による指導法の改善」、「障がい児介助員の配置」などに取り組んできました。指標「ことばの教室（構音障害）修了者の割合」では、年度をまたいで継続指導となる構音障害の児童生徒がいたため、評価が「やや遅れている」となっています。しかしながら、指標「特別な配慮を要する児童・生徒の支援率」は100%で目標を達成しています。素晴らしいと思います。今後は、医療的ケア等が必要な児童生徒に適切な支援を図るために、看護師、准看護師や障がい児介助員を配置することや、日本語を指導するための日本語指導助手を配置することなど、引き続き、特別な配慮を要する児童生徒の教育的ニーズに適切に対応するため、支援体制の充実に向けた教職員の研修や、必要な人材の確保を行ってほしいと思います。
- 「ことばの教室(構音障害)修了の割合」の目標数値に対して、実績数値が低いとの報告ですが、継続指導が必要と判断された児童生徒が少なからずいたとのこと、及び就学時健康診断時の検査において通級が適切という判断がより丁寧になされたこと、さらに保護者の理解がより深まったことにより通級希望者が増加したことの裏返しではないかと思います。今後は、児童生徒に一人一人に寄り添うとともに、担当教員の専門性を高める研修の実施や通級指導教室の環境整備等に力を注いでいただきたいと思います。
- 「特別な配慮を要する児童生徒への支援率」の目標値100に対し、実績値が継続的に100になっています。現在、特別な配慮を要する児童生徒は増えつつあると思われます。そのような現状において、毎年障がい児介助員の必要人数を確保することは相当に苦労があると考えます。実績値100を維持していることは素晴らしいと思います。今後とも、障がい児介助員の確保に尽力していただきたいと思います。さらに、確保とともに、質の向上を図る取組にも取り組んでいただきたいと思います。また、特別な支援を必要とする児童生徒に適切な指導・支援を行うため、特別支援学級の設置に積極的に取り組んでいただいています。大変ありがたいことであると思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ 障がいのある児童生徒、医療的ケアを必要とする児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒など、一人ひとりの多様な教育的ニーズを的確に把握し、適切な支援を行うため、日本語指導助手や障がい児介助員などの必要な人材を確保・配置する。
- ・ 医療的ケアなど多様化するニーズに対応するために、看護師・准看護師・訪問看護ステーションとの連携を図り、専門的な人材を確保・配置する。
- ・ 担当教員の専門性を高めるために、言語聴覚士や作業療法士等の専門家を活用した研修を行い、指導方法の改善及び指導力の向上に努める。
- ・ 今後も、特別な配慮を要する児童・生徒の支援率100%を維持するため、特別支援学級や通級指導教室（言葉の教室、発達障害・情緒障害通級指導教室）の適正な設置や環境整備に取り組む。

施策6 学びを支える経済支援

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

経済的理由によって就学が困難な児童生徒に必要な支援を実施し、小中学校9年間の普通教育を保障します。

河野博士育英基金を活用し、学習意欲があり、経済的理由により就学が困難なものに学資金を給与し、有用な人材の育成を推進します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析						令和8年度の取組内容		
s10	1・目標を達成	指標	援助を必要とする保護者への支給率						・援助を必要とする保護者への適切な支援を図るために、制度の周知を徹底するとともに、迅速かつ適正な認定及び支給事務を行う。	
		指標の根拠等	・援助を受けた保護者数÷援助を必要とする保護者数×100 ※援助…小学校就学支援、中学校就学支援、避難者支援就学支援							(%)
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		100	100	100	100	100		
		実績	100	100	100	100	100	100		
		・経済的な理由により就学が困難な児童生徒の教育機会を確保するため、保護者に給食費、学用品費、校外活動費等の就学援助費を支給するとともに、制度の案内を行った。 ・物価高騰の影響を受けている子育て世帯の教育費負担を軽減するため、令和8年5月に小・中学校へ入学する児童生徒がいる準要保護世帯に「ちょこっとおたすけ絆サポート券」を配布した。 ・目標を達成したのは、就学援助制度の案内や周知を徹底するとともに、援助を必要とする時期に速やかな支給を行う体制を整えたことで、援助を必要とする全ての保護者への支援を届けることができたためである。								
		課題						・援助を必要とする保護者への周知を徹底する必要がある。周知方法については、市の広報等やホームページを通じて、幅広く周知することが課題である。		

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析						令和8年度の取組内容	
s11	1・目標を達成	指標	河野博士育英基金を活用し新規に採用する奨学生の人数						・学力が優秀でありながら経済的理由で就学が困難な生徒に、適正に奨学金を給与する。
		指標の根拠等	・援助を受けた保護者数÷援助を必要とする保護者数×100 ※援助…小学校就学支援、中学校就学支援、避難者支援就学支援 (人)						
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)	
		目標		10	10	10	10	10	
		実績	9	11	15	15	13	15	
		・経済的な理由により高等学校への就学が困難な生徒を支援するため、選考委員会での協議を経て15人を奨学生として選考し、河野博士育英奨学資金を給与した。 ・奨学金を必要とする生徒及び保護者に制度を周知するため、市立中学校を通じて案内チラシを配布した。 ・目標を達成したのは、目標値を上回る15名と、援助を必要とする保護者に対して、給与することができたためである。							
		課題 ・市立中学校へ案内チラシの配布・周知を図り、援助を必要とする学生や保護者への周知を徹底する必要がある。さらに、市のホームページ等による案内チラシ以外の周知方法を検討し、進めることが課題である。							

<学識経験者の意見等>

○ 家庭の経済力の差が教育の格差につながっているといわれる中、経済的な理由により就学が困難な児童生徒の教育機会を確保することは大変重要なことであると認識しております。加須市教育委員会では、援助を必要とする保護者への適切な支援を図るために、制度の周知を徹底するとともに、迅速かつ適正な認定及び支給事務を行っているということです。その結果、本年度も、「援助を必要とする保護者への支給率」が100%という結果になっています。素晴らしいと思います。さらに、物価高騰の影響を受けている子育て世帯の教育費負担を軽減するため、令和8年5月に小・中学校へ入学する児童生徒がいる準要保護世帯に「ちょこっとおたすけ絆サポート券」を配布したということです。入学直前は、その準備のために、援助が必要になります。この報告書からは、金額については分かりませんが、援助を必要とする時期に、ほんの少しでも援助していただけることは保護者にとっては大変ありがたいことだと思います。今後も継続的に事業を進めていってほしいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・引き続き制度の周知を徹底するため、今後、新たに小学校から大学までの教育にかかる費用の支援を紹介するチラシを作成・活用していくことで、援助を必要とする保護者への適切な支援を図る。
- ・今後、新たな国の交付金が活用できる場合には、教育費の負担軽減策を講じる中で、準要保護世帯への「ちょこっとおたすけ絆サポート券」の配布についても検討する。

施策7 自立する力の育成

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

社会の変化に主体的に対応できる人材を育成するため、環境教育・環境学習や消費者教育、安全安心の確保に向けた防災教育、防犯教育、交通安全教育などを推進します。

生涯にわたる様々な課題に対して柔軟に対応し、社会人・職業人として自立できる人材を育成するため、発達段階に応じた望ましい職業観や勤労観を身に付けるための教育を推進します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s12	1・目標を達成	指標	小中学校における「加須市防災ノート」の活用率							・児童生徒の防災意識と災害時の対応力の向上させるため、「加須市防災ノート」を活用した防災教育を推進する。 ・最新の情報や加須市の状況を関連させた指導資料の改定を行う。 ・教員の防災教育の指導力向上を図るために、加須市防災教育研修会において、防災ノート活用研修を実施する。
		指標の根拠等	・「加須市防災ノート」を活用し防災教育を実施した小中学校数÷小中学校数×100 (%)						7年度(決算)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度			
		目標		100	100	100	100	100		
		実績		100	100	100	100	100		
		・児童生徒の防災意識と災害時の対応力を高めるため、各小・中学校に「加須市防災ノート」を配布し、避難訓練の事前・事後学習や家庭での話し合いに活用するよう推進した。 ・地域で防災活動の中核を担う人材を育成するため、中学2年生34名を対象に中学生ボランティアリーダー育成研修会を実施した。中学生防災士6名も運営ボランティアとして参加し、炊き出し訓練や心肺蘇生法等の実践的な研修を行った。 ・目標を達成したのは、全校において加須市防災ノートを教育活動に活用し、避難訓練時の事前・事後学習や家庭への持ち帰りによる防災意識の向上など、計画的・継続的な取組を実施したためである。							課題 ・防災ノートの効果的な活用を図るため、指導資料の作成をするとともに、活用方法について研修を行い、授業力の向上を図る必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s13	3・やや遅れている	指標	ふれあい講演会を実施した中学校の割合							- キャリア教育の充実を図るために、市立各中学校に本事業の趣旨を周知し、ふれあい講演会の実施のための支援を行う。 - ふれあい講演会の充実を図るために、多様な講師の確保に向けた学校への情報提供を行う。 - 将来の夢や目標を持って学校生活を送ることのできる生徒を育成するため、中学校1年生を対象に、自己理解の気づきとなる進路適性検査を実施する。
		指標の根拠等	・「ふれあい講演会」を実施した中学校数÷中学校数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		100	100	100	100	100		
		実績		50	50	75	75	63		
		- 生徒のキャリア形成や進路意識の啓発・高揚を図るため、「ふれあい講演会の実施」を支援した。中学校8校中5校が「ふれあい講演会」を実施し、実施していない3校については、埼玉県の実業等を活用した講演会の実施を支援した。 - 目標に及んでいないのは、埼玉県の実業などを活用して講演会を実施する学校があったためである。								
課題										
生徒が将来の夢や希望について考える機会の充実に向けて、引き続き、各中学校へ講師に関する情報提供を行い、「ふれあい講演会」の実施校を増やしていくことが課題である。										

<学識経験者の意見等>

○ 地球温暖化が原因とみられる異常気象等による台風や豪雨，それに伴う土砂災害，地震や津波等の災害が毎年のように発生し多くの犠牲者が出ています。過去に台風による豪雨によって利根川の堤防が決壊し多くの被害と犠牲者が出てしまった本市においては，児童生徒に実践的な「防災対応能力」の基礎を培うことは大変重要だと思います。そのような中，「加須市防災ノート」が市内各小・中学校で毎年度100%活用されていることは素晴らしいと思います。防災教育では，自然災害等の現状，原因及び減災等について理解を深めることや災害発生等に伴う危険を理解・予測し自らの安全を確保するための行動ができるようにすることが重要です。さらなる防災教育の充実を願ってやみません。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ 自然災害や感染症の拡大等、様々な危機事象を想定し、全教職員の共通行動による危機対応を可能とするため、引き続き学校危機管理マニュアルの定期的な見直しと、その内容についての教職員への周知徹底を図る。
- ・ 児童生徒の防災対応能力のさらなる向上のため、防災ノートを活用した探究的な学習や、中学生防災士を活用した「中学生ボランティアリーダー研修会」の充実を図る。
- ・ 児童生徒が安心して通学できる環境を確保するため、通学路の点検を実施し、危険箇所を改善するとともに、保護者や地域住民による見守り活動の強化など、地域と連携した防犯対策を推進する。
- ・ 生徒のキャリア形成や進路意識の啓発、高揚のため、引き続き埼玉県の実業等の活用を進めるとともに、「ふれあい講演会」の内容の一層の充実を図るための支援を行う。

基本目標2 豊かな心を育む取組を推進します

施策1 いじめ対策の充実

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

「学校いじめ防止基本方針」に基づき、計画的、組織的な対応を行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図ります。

市・学校・家庭・地域・その他の関係機関が連携し、いじめ問題の克服に向けた対策を推進します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容		
s14	3・ やや遅 れてい る	指標	いじめの解消率（上段：小学校、下段：中学校）							- いじめの未然防止及び早期対応を図るために、各学校における「学校いじめ防止基本方針」の見直しを指示する。 - 令和7年度の実績を分析し、各学校の課題を明確にした上で、課題解決のための見直しを進める。 - 指導主事が各校の教育相談部会、生徒指導部会に積極的に参加し、実態把握をするとともに課題解決方法を共有する。 - 児童生徒のいじめ防止に対する意識を高めるために、「加須市青少年未来サミット」を開催するとともに、各校のいじめ防止のための取り組みを広める。	
		指標の根拠等	・いじめの解消数÷いじめの認知数×100						(%)		
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)			
		目標		100 100	100 100	100 100	100 100	100 100			
		実績	85 83	73 80	68 65	70 71	73 71	73 74			
		・いじめを許さない意識を高めるため、「加須市青少年未来サミット」を開催した。							課題 - 各校の実績を分析し、実態に合った解決方法を学校とともに考えていく必要がある。 - 各校の教育相談部会、生徒指導部会に積極的に参加し実態を把握するとともに、学校に対して継続的な支援の必要がある。		
		・いじめの未然防止、早期発見及び早期解消を図るため、各小・中学校に「学校いじめ防止基本方針」の作成と見直しを求め、計画的・組織的な対応について指導・助言を行った。									
・目標に及んでいないのは、いじめの認知件数小学校78件・中学校27件のうち、3学期時点で小学校57件・中学校20件であったため。											
※いじめの解消は、国の基本方針に基づき、行為が止んでいる状態が少なくとも3か月継続していること、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことを確認して判断する。											

＜学識経験者の意見等＞

○ いじめ対策では、「いじめ防止等の対策の組織と計画の策定」、「いじめ防止につながる発達支持的生徒指導」、「いじめの未然防止教育」、「いじめの早期発見対応」、「関係者の連携・協働」、「保護者・地域の人々との連携」等が重要です。加須市教育委員会では、いじめを許さない意識を高めるため、「加須市青少年未来サミット」の開催、各小・中学校に「学校いじめ防止基本方針」の作成と見直しを求めるとともに、計画的・組織的な対応について指導・助言等を行いました。しかしながら、いじめの解消率は、小中学校とも70%前後にとどまっています。大変残念なことです。今後は、各校の教育相談部会、生徒指導部会に積極的に参加するなどして、実態を把握するとともに、学校に対して継続的な支援をしていってほしいと思います。

＜今後の施策の方向性・展開＞

- 各学校で、いじめの未然防止、早期発見・早期対応が徹底できるようにするため、関係機関との連携を一層強化する。指導主事が各学校の教育相談部会や生徒指導部会に参加し、児童生徒の実態や支援方針を共有するとともに、具体的な対応について指導・助言を行う。また、必要に応じて関係機関との連携を図り、いじめの解消に至るまで対応状況を継続的に確認する。
- 児童生徒がいじめを自分事として捉え、自ら考え行動する力を育むため、「加須市青少年未来サミット」を開催し、各校の取組の共有や中学校区ごとの協議を通して、いじめ撲滅に向けた行動目

標を定め、また、その成果を各校の児童生徒主体の取組として継続・発展させ、いじめを許さない、見逃さない学校・学級づくりを市全体で推進する。

施策2 不登校対策を中心とした教育相談の推進

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

小中学校配置のスクールカウンセラーや中学校配置のさわやか相談員に加え、市立教育センターに配置しているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、子どもや保護者を支援する教育相談体制を充実させ、不登校の未然防止と早期解決を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s15	4・大幅に遅れている	指標	不登校児童の割合（小学校）							・SSRを開設する小学校には、教育活動補助員を配置し、利用する児童に寄り添った支援を充実させる。 ・不登校問題対策委員会を実施し、市全体の課題と方策を協議するとともに、課題の解決方法を共有する。 ・指導主事が各校の教育相談部会や生徒指導部会に参加し、児童生徒の状況を把握するとともに、適切なアセスメントについて共有する。 ・不登校児童生徒へ支援するために、教育センターにおける学びサポート「ピア」、ステップ「ピア」や学びリンク「ピア」、メタバース空間を活用した支援、日本語指導の充実を図る。 ・「ハートピア」を実施し、保護者同士の学習と交流の場の機会を設ける。
		指標の根拠等	・小学校の不登校児童数÷全児童数×100							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		実績	0.43	0.53	0.78	1.12	1.14	1.35		
		・不登校児童の学校復帰や社会的自立を支援するため、教育センターに学びサポート「ピア」を設置し、生活指導、学習支援、スポーツ活動及び体験活動等を実施するとともに、ステップ「ピア」やオンライン支援のリンク「ピア」を活用した。 ・不登校児童の保護者の心理的負担を軽減するため、不登校を考える親の会「ハート・ピア」を年4回開催し、保護者同士が悩みを共有できる場を設けた。 ・不登校の未然防止と早期解消を図るため、教育センターに巡回スクールカウンセラー1人、スクールカウンセラー2人、スクールソーシャルワーカー2人を配置し、個別教育相談や家庭訪問等による支援を行った。 ・不登校問題への組織的な対応を図るため、加須市小中学校不登校問題対策委員会を年3回開催し、各校との情報交換及び具体的な対応策の検討を行った。 ・目標に及んでいないのは、教育相談体制の充実など多様な支援を実施したものの、小学校の不登校児童数は令和3年度の28人から令和7年度には66人へと増加しており、1.35%と目標値を大きく上回る結果となったためである。								
		課題								
		・不登校児童の増加の要因について、欠席日数や支援への接続状況等を分析し、実態に応じた支援を進める必要がある。 ・小学校のSSR設置について、各校との情報共有を丁寧に行い、必要に応じて積極的な設置ができるよう予算措置をする必要がある。 ・SSRの効果的な運営に向け、児童への個別の支援を担う人材の配置など、人的な支援の充実を図る必要がある。 ・「ピア」の活動内容や様子を市ホームページやテトル等で積極的に紹介し、児童生徒や保護者に広く周知し、早期に支援につなげる必要がある。								

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価(1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている)

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s16	4 ・大幅に遅れている	指標	不登校生徒の割合（中学校）							・不登校問題対策委員会を実施し、市全体の課題と方策を協議するとともに、課題の解決方法を共有する。 ・指導主事が各校の教育相談部会や生徒指導部会に参加し、児童生徒の状況を把握するとともに、適切なアセスメントについて共有する。 ・不登校児童生徒へ支援するために、教育センターにおける学びサポート「ピア」、ステップ「ピア」や学びリンク「ピア」、メタバース空間を活用した支援、日本語指導の充実を図る。 ・「ハートピア」を実施し、保護者同士の学習と交流の場の機会を設ける。
		指標の根拠等	・中学校の不登校生徒数÷全生徒数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
		実績	3.66	3.93	5.90	7.52	7.19	8.21		
		・不登校生徒の学校復帰や社会的自立を支援するため、教育センターに学びサポート「ピア」を設置し、生活指導、学習支援、スポーツ活動及び体験活動等を実施するとともに、ステップ「ピア」やオンライン支援のリンク「ピア」を活用した。 ・教室に入ることが難しい生徒の居場所と学びの機会を確保するため、全市立中学校にスペシャルサポートルームを設置し、生徒の状況に応じた支援を行うよう各校に指導・助言した。 ・不登校の未然防止と早期解消を図るため、全市立中学校にさわやか相談員8人を配置し、スクールカウンセラーと連携した個別教育相談や家庭訪問等を実施した。 ・不登校問題への組織的な対応を図るため、加須市小中学校不登校問題対策委員会を年3回開催し、各校との情報交換及び具体的な対応策の検討を行った。 ・目標に及んでいないのは、スペシャルサポートルームの活用や教育相談体制の充実など多様な支援を実施したものの、中学校の不登校生徒数は令和3年度の111人から令和7年度には218人へと増加しており、8.21%と目標値を大きく上回る結果となったためである。								
		課題								
		・不登校生徒の増加の要因について、欠席日数や支援への接続状況等を分析し、実態に応じた支援を進める必要がある。 ・SSRの効果的な運営に向け、生徒への個別の支援を担う人材の配置など、人的な支援の充実を図る必要がある。 ・「ピア」の活動内容や様子を市ホームページやテトル等で積極的に紹介し、児童生徒や保護者に広く周知し、早期に支援につなげる必要がある。								

<学識経験者の意見等>

- 不登校対策では、「不登校対策に求められる学校の組織と計画の策定」、「不登校対策につながる発達支持的生徒指導」、「不登校対策としての課題未然防止教育」、「不登校対策における課題早期発見対応」、「関係機関との連携・協働」、「保護者との連携」等が重要です。加須市教育委員会では、不登校児童の学校復帰や社会的自立を支援するため、教育センターに学びサポート「ピア」を設置し、生活指導、学習支援、スポーツ活動及び体験活動等を実施するとともに、ステップ「ピア」やオンライン支援のリンク「ピア」を活用しています。また、不登校を考える親の会「ハート・ピア」の開催、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる個別教育相談や家庭訪問等による支援、加須市小中学校不登校問題対策委員会の開催等に取り組んでいます。しかしながら、小中学校とも、「不登校児童生徒の割合」は増加傾向にあります。今後は、これまでの取組を充実発展させるとともに、指導主事が各校の教育相談部会や生徒指導部会に積極的に参加するなどして、実態を把握するとともに、学校に対して継続的な支援をしていってほしいと思います。
- 不登校児童生徒の増加は、全国的な傾向であり、不登校児童生徒を減少させることは、どの市町村でも喫緊の課題となっています。加須市においても「不登校児童生徒の割合」の目標数値と実績数値との間に差があり、教育委員会の評価も「大幅に遅れている」と評価しています。しかしながら、問題解消に向けて、教育委員会は積極的に取り組んでいると思います。教育センターにおける4つの「ピア」の実施、指導主事の校内教育相談委員会への出席、「スペシャルサポートルーム」の設置、「不登校問題対策委員会」の開催等、他の市町にも誇れる取組をしていると感じます。不登校問題は、一朝一夕に解消できるものではありません。今後は、現状の取組を検証し、取組の工夫・改善を図っていただければと思います。また、新たな不登校児童生徒を生まないことに重点を置いた取組の推進を期待します。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・不登校児童生徒の減少と社会的自立に向けた支援の充実を図るため、不登校の未然防止、予兆の早期発見・対応を支援するとともに、4つの「ピア」を基盤とした市立教育センターの機能を強化し、フリースクール等の関係機関と連携して、一人ひとりの状況に応じた学びの場や居場所としての環境を整える。
- ・小・中学校にスクールカウンセラー、中学校に中学校配置相談員（さわやか相談員）を配置するとともに、市立教育センターに相談員、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを配置し、電話相談、来所相談、訪問相談等を行うことにより、児童生徒や保護者との相談体制を強化する。
- ・教室に入りづらい児童生徒が、学校とのつながりを保ちながら自分のペースで学習や相談ができるようにするため、スペシャルサポートルーム（校内教育支援センター）の環境整備と活用を推進し、学校内における多様な居場所づくりを支援する。
- ・各学校の不登校対策を組織的に支援するため、「不登校問題対策委員会」において、欠席状況や支援状況の分析、未然防止・早期対応に有効な取組、一人ひとりに応じた支援方法を重点的に検討・共有し、その成果を各学校へ還元するとともに、各校の教育相談部会や生徒指導部会において、適切なアセスメントと支援方針について指導・助言する。
- ・どこにもつながらない児童生徒をゼロにするため、メタバース空間を活用した不登校児童生徒への支援を行う。

施策3 学校等における人権教育の推進

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

道徳教育や人権教育を通して心の教育を充実させ、豊かな人権感覚を身に付けるとともに、自ら考え、判断し、行動できるように努力する児童生徒の育成に努めます。

学校人権教育計画訪問を継続して計画的に実施するとともに、学校人権教育指導資料の作成と活用を通じた学校人権教育の充実を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析						令和8年度の取組内容	
s17	2・概ね達成	指標	「人が困っているときに進んで助けますか」に「はい」と答えた児童の割合（上段：小学校、下段：中学校）						・児童生徒の豊かな心の育成を図るために、小中連携した教育活動や、小中連携した校外行事を充実させ、保・幼・小中一貫教育を推進する。
		指標の根拠等	・全国学力・学習状況調査 「人が困っているときに進んで助けますか」に「はい」と答えた児童生徒数÷児童生徒数×100 (%)						
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）	
		目標		91.5 90.5	92.5 90.0	93.5 93.0	94.5 94.0	95.0 95.0	
		実績		86.2 89.3	89.8 91.2	94.1 88.1	93.6 90.2	95.2 91.8	
		・豊かな人間性と思いやりの心を育むため、保・幼・小中一貫教育事業における異年齢交流の実施を支援し、相手を敬い、思いやる心の育成を図った。 ・児童生徒の心のふれあいとあいさつの習慣化を図るため、教育機関、地域、行政機関等が一体となった「加須市あいさつ運動」を展開し、駅キャンペーンや市民まつりでの啓発活動を実施した。 ・目標を概ね達成したのは、道徳教育や人権教育を通して心の教育を充実させることができ、前年度からの向上がみられたためである。							
		課題						・児童生徒の豊かな心の育成に向けて、学校・家庭・地域が連携した教育活動を、学校運営協議会や学校応援団等の組織を活用しながら、引き続き推進していく必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s18	4 ・大幅に遅れている	指標	集会所年間利用者数							・実績値と目標値が乖離しているため、目標値の見直しをする。また、小中学生学級の参加者が減少しているため、集会所のあり方や開催方法等の見直しを図る。
		指標の根拠等	・小中学生学級、成人学級等で集会所を利用した市民の延べ人数						(人)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		12,100	12,100	12,100	12,100	12,100		
		実績	2,371	2,758	3,833	4,724	3,978	3,558		
		・集会所での活動を通して人権感覚を高めるために、小中学生学級や成人学級を実施した。 ・目標に及んでいないのは、集会所を利用している市民の高齢化が進んだこともあり、参加者の増とはならなかったためである。								
		課題							・集会所の利用状況を精査し、集会所及び小中学生学級のあり方を検討する必要がある。	

<学識経験者の意見等>

○ 加須市は、保・幼・小中の連携がとりやすい環境に恵まれている地域が多いと思います。そのような地域特性を活用し、加須市教育委員会では、保・幼・小中一貫教育事業における異年齢交流の実施を支援し、相手を敬い、思いやる心の育成を図っているということです。また、児童生徒の心のふれあいとあいさつの習慣化を図るため、教育機関、地域、行政機関等が一体となった「加須市あいさつ運動」を展開しています。その結果、「人が困っているときに進んで助けますか」に「はい」と答えた児童生徒の割合は、毎年増加し続けています。素晴らしいことだと思います。今後も、児童生徒の豊かな心の育成を図るために、学校の教育活動全体を通した道徳教育の充実、様々な体験活動の充実、加須市独自の小中連携した教育活動や、小小連携した校外行事等を充実させ、保・幼・小中一貫教育を推進していったほしいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ 幼児教育から義務教育まで一貫して、一人ひとりを大切にすることを教育を推進するため、学校間・教職員間の連携を強化し、異年齢交流を通して、年齢や学校種の異なることも同士が互いを理解し、認め合う活動を充実させるとともに、リンクミーティングにおいて、幼児・児童生徒の実態や指導上の配慮事項を共有し、各校種における教育活動の充実を図る。
- ・ 児童生徒が互いのよさや違いを認め、尊重し合う態度を育成するために、小中学校教員による合同研修や教科部会において、各教科等における人権教育の視点や指導方法を共有するとともに、中学校区における小中交流会や小小連携による教育活動を通して、義務教育9年間を見通した一貫性のある人権教育の充実を図る。
- ・ 生活習慣や生徒指導について、就学前から小学校までの連続性のある指導を充実させるため、保・幼・小の合同研修を通して、幼児・児童一人ひとりを尊重した関わり方や、発達段階に応じた指導・支援の在り方について共通理解を深める。
- ・ 発達段階に応じた人権感覚を育成するため、各学校が「特別の教科 道徳」を要とした教育活動全体を通して人権教育を推進できるよう、人権教育計画訪問や教職員研修において、人権課題や指導方法について指導・助言する。また、学校人権教育指導資料等を活用した授業実践を各学校に広げ、人権教育の一層の充実を図る。
- ・ 成人学級等、集会所の利用状況を精査するとともに、集会所の今後のあり方についても、検討していく。

基本目標3 安全で安心な学校給食の提供と健やかな体の育成を推進します

施策1 安全・安心な給食の提供

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

安全・安心で栄養バランスに優れたおいしい学校給食を幼児、児童生徒に提供します。

安全で安心な食材を確保するとともに、地産地消の拡大を図るため、給食に取り入れる地元でとれる食材の種類や使用量を拡充させ、郷土理解を推進します。

加須市立学校給食センターの現状と課題を踏まえ、3センター体制を再編し、2センター体制とします。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s19	2・概ね達成	指標	学校給食満足度							・学校給食の満足度向上のために、児童生徒へのアンケート調査を継続実施し、児童生徒の給食の嗜好傾向等についての把握を行い、より安全安心で、質や量を確保した学校給食を提供していく。	
		指標の根拠等	・毎年2学期に実施する児童生徒アンケート調査で「好き」と答えた割合					(%)			
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)			
		目標		66	67	68	69	70			
		実績	61	59	64	59	65	64			
		・学校給食の満足度向上のために、栄養バランスを考慮し、季節のメニューを取り入れる等、献立の工夫に努め児童生徒の嗜好傾向にあった学校給食を提供した。 ・目標に及んでいないのは、献立の工夫に努めたが、2学期に実施した児童生徒アンケート調査において「普通」と答えた割合が、微増したためである。									
		課題							・多様なニーズを的確に捉え、こどもたちの実態に即した献立作成や食材・メニューの魅力を伝えるための情報発信を強化する必要がある。		

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s20	2・概ね達成	指標	地場産野菜使用率							・学校給食における地場産野菜の使用量拡大を図るために、引き続き関係課と連携し、給食で提供可能な農産物や仕入れ先（生産者等）についての情報共有に取り組む。	
		指標の根拠等	・地場産野菜使用量÷野菜使用量×100						(%)		
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)			
		目標		17.0	18.0	18.0	19.0	19.0			
		実績	18.3	20.0	21.1	15.8	15.8	17.3			
		・地場産野菜使用率向上のために、関係課と連携を図り、旬の野菜をできる限り学校給食で使用した。 ・目標に及んでいないのは、地場産野菜については季節ごとに出荷量のばらつきがあることから、必要量が確保できなかったためである。							課題 ・地場産野菜は天候不順などの影響を受けやすく、給食に必要な「まとまった量」を指定日に安定して確保することが難しいため、直売所の入荷状況に応じて柔軟に対応できる献立を作成する必要がある。		

<学識経験者の意見等>

- 安全・安心で栄養バランスに優れたおいしい学校給食を幼児、児童生徒に提供することは大変重要なことだと思います。そのため加須市教育委員会では、栄養バランスを考慮し、季節のメニューを取り入れる等、献立の工夫に努め児童生徒の嗜好傾向にあった学校給食を提供しているということです。児童生徒の給食の嗜好傾向等は様々で、多様なニーズがあると思います。限られた予算の中で、それに100%こたえることは不可能に近いと思います。そのような中、半数以上の児童生徒が、給食を「すき」と回答しています。素晴らしいことだと思います。また、「地場産野菜使用率向上」にも取り組んでいるようですが、いくつかの課題があるようです。今後とも、学校給食における地場産野菜の使用量拡大を図るために、関係課と連携するなどしてほしいと思います。
- 給食食材が高騰したり、児童生徒の嗜好傾向に合わせたりする中、給食の献立を考え、給食を提供することには大変な苦労があることと思います。そのような現状において、指標「学校給食の満足度」に対し、6割以上の児童生徒が「すき」と回答していることは給食センターの努力が報われていると思います。学校給食は、まず安心・安全であること、そして児童生徒が美味しく満足感を得ることが大切です。今後も、給食に関わる事故を防ぐとともに、適切に食材を調達し、栄養バランス・児童生徒の嗜好に即した給食の提供をお願いします。さらに、すでに取り組まれているかどうか分かりませんが、他市町の給食センターの取組や献立等の情報交換をしたり、互いに試食したりして、他との連携を図った取組があっても良いかなと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・学校給食の満足度向上を図るために、児童生徒へのアンケート調査を実施し、給食の嗜好傾向等を把握し、その結果を献立に反映させる。
- ・地場産野菜の使用量拡大を図るために、関係課と連携し、給食で提供可能な農作物や仕入れ先（生産者等）についての情報共有に努めるとともに、直売所の入荷状況に応じて柔軟に対応できる献立を作成する。
- ・給食センター運営の質の向上と効率化を図るために、他市町の給食センターとの情報交換等を通じた連携に努め、運営改善に活かす。

施策2 食育の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

知育・徳育・体育の基礎となる食育の充実を図ります。食育をとおして、食に関する正しい知識を身に付け、栄養の偏りや健康被害、肥満、学力・免疫力の低下等の防止を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s21	2・概ね達成	指標	児童生徒の体格(標準)(上段:小学校、下段:中学校)							・食事・運動・睡眠を柱とした規則的でよりよい生活習慣の確立に向けて、各校へ栄養教諭を派遣し、発達段階に応じた食育の指導と、保護者への啓発を行っていく。
		指標の根拠等	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		84.0 86.0	84.0 86.0	86.0 88.0	88.0 88.0	90.0 90.0		
		実績		83.6 86.7	82.2 87.8	84.9 86.8	83.1 84.8	83.9 85.8		
		・児童生徒の健康管理の充実を図るため、学校保健安全法に基づく各種健康診断を実施し、学校医、学校歯科医及び学校薬剤師と連携して適切な健康管理を行った。 ・食物アレルギーへの適切な対応を図るため、教職員を対象とした研修を実施し、各校における対応体制の充実を図った。 ・児童生徒の体力向上を図るため、加須市小・中学校児童生徒体力向上推進委員会において「加須市なわとび月間」を設定し、各校の実態に応じた取組を推進した。 ・目標を概ね達成したのは、健康診断の実施や栄養バランスのとれた給食提供など健康管理に取り組み、概ね埼玉県の標準と変わらなかったためである。								
		課題								
・昨年度と比較し成果が出ているが、運動習慣や朝食喫食、規則正しい生活習慣の育成には家庭の協力が欠かせないため、引き続き家庭の理解を得ていく必要がある。										

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s22	3・やや遅れている	指標	学校給食残食率							・フードロスの削減を図るために、児童生徒へのアンケート調査を行い、児童生徒の給食の嗜好傾向等を把握し、その結果を献立に反映させながら、より安全安心で質や量を確保した学校給食を提供していく。	
		指標の根拠等	・残食量÷配食量×100						(%)		
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)			
		目標		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
		実績	2.0	2.0	2.2	2.0	2.0	2.8			
		・学校給食残食率の低減を図るために、アンケート調査等を参考に、旬の食材を使用するなど食に関心を持たせるような献立の検討を行い提供した。 ・目標に及んでいないのは、献立の工夫に努めたが、食習慣の多様化による嗜好の差の拡大や配膳量と児童生徒が食べられる量との不一致、給食時間の制約による食事時間の不足等が要因となったためである。							課題 ・残食の要因の一つに給食時間の不足が挙げられることから、各学校における給食時間（準備・喫食・片づけ）の見直しを検討する必要がある。		

<学識経験者の意見等>

○ 「施策2 食育の推進」と「施策3 健康の保持増進」の指標について意見を述べさせていただきます。「施策2 食育の推進」の指標として、「児童生徒の体格（標準）」及び「学校給食残食率」を数値目標としています。また、「施策3 健康の保持増進」の指標として、「児童生徒の歯治療率」及び「児童生徒の朝食摂取率」を数値目標としています。個人的な意見になるかと思いますが、「施策2 食育の推進」の指標として、「学校給食残食率」及び「児童生徒の朝食摂取率」を、「施策3 健康の保持増進」の指標として、「児童生徒の体格（標準）」及び「児童生徒の

「う歯治療率」を数値目標としたほうが、いいのではないかと思います。いかがでしょう。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・児童生徒の健康の保持増進を図るため、フッ素塗布やカラーテストの配付を継続するとともに、学校における保健指導と家庭における生活習慣の改善がつながるよう、歯科衛生士による歯科指導や、ホームページ等による保健に関わる情報提供をととして、学校と家庭の連携を促進する。
- ・児童生徒の体力向上と運動習慣の定着を図るため、各種調査結果を分析して課題を明らかにし、その結果を各学校へ提供するとともに、体育科の授業及び体育的行事の充実に向けた取組を支援する。
- ・フードロスの削減を図るために、児童生徒へのアンケート調査を実施し、給食の嗜好傾向等を把握し、その結果を献立に反映させながら、より安全安心で質や量を確保した学校給食を提供する。
- ・児童生徒の食への関心を高めるために、旬の食材を活かした献立の工夫などに努める。
- ・学校給食残食率の低減を図るため、教育委員会は、各学校における給食時間の実施状況を調査し、ゆとりを持った喫食時間が確保できるよう指導・助言を行うとともに、優れた取組事例の横展開を図る。
- ・児童生徒の健やかな体の育成と学校給食の充実に向け、第3次加須市人づくりプランに位置付けた「新体力テスト」の上位3ランク（A・B・C）の児童生徒の割合、う歯治療率及び学校給食満足度によって取組の成果を検証し、改善に反映させていくことで知育・徳育・体育の基礎となる食育の一層の充実を図る。

施策3 健康の保持増進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

学校保健安全法に基づく児童生徒の健康管理を推進します。

食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けるとともに、自らの健康管理ができる資質や能力の向上、豊かな人間性を育む基礎を培います。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s23	2・概ね達成	指標	児童生徒のう歯治療率（上段：小学校、下段：中学校）							・う歯治療率の増加に向けて、健康診断で受診、治療が必要だと判断された児童が確実に受診、治療につながるよう学校と連携して勧奨に取り組む。		
		指標の根拠等	・処置歯数÷（未処置歯数＋喪失歯数＋処置歯数）×100（%）									
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）				
		目標		96 96	96 96	96 96	96 96	96 96				
		実績	87.8 95.7	86.0 93.1	86.6 91.9	85.1 93.1	92.8 93.8	82.6 87.4				
		・児童の歯の健康保持・増進を図るため、学校歯科保健事業として歯科衛生士を44回派遣し、フッ素塗布及び歯磨き指導を実施した。										
		・児童の歯科疾患の早期発見・早期治療を図るため、学校歯科医による歯科検診、就学時歯科検診及び臨時歯科検診を実施し、異常が認められた児童の保護者に治療を勧めた。										
・児童生徒の歯科疾患の予防と健康管理の充実を図るため、各校における歯科保健指導の実施を推進した。												
・目標を概ね達成したのは、口腔衛生の必要性・重要性を理解させる健康教育を実施したためである。												
											課題	
											・う歯治療率の増加に向けて、引き続き健康教育を行う必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s24	3・やや遅れている	指標	児童生徒の朝食摂取率（上段：小学校、下段：中学校）							・食事・運動・睡眠を柱とした規則的でよりよい生活習慣の確立に向けて、各校に栄養教諭を派遣し、発達段階に応じた食育の指導と、保護者への啓発を行う。 ・朝食摂取率を上げるため、小・中学生向けに朝食をとることの大切さを伝えるリーフレットを作成する。		
		指標の根拠等	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査 朝食を摂取した児童数÷児童数×100					(%)				
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)				
		目標		90 90	92 92	94 94	95 95	95 95				
		実績		77.7 75.9	79.5 74.3	73.6 71.2	75.0 72.6	75.8 76.2				
		・児童生徒の朝食摂取率の向上を図るため、栄養教諭を各学校へ派遣し、朝食の大切さや望ましい食習慣に関する指導を実施した。 ・目標に及んでいないのは、各校の取組により朝食喫食の大切さの知識は身につけている一方で、実践となると家庭環境が大きく影響したためである。										
課題												
・各校の取組により、朝食喫食の大切さは知識として身につけているが、実践に結びついていない。家庭環境が大きく影響し、十分に目標値を達成することができない状況である。こどもたちの指導に加えて、家庭への啓発活動が必要である。												

<学識経験者の意見等>

○ 次代を担う児童生徒の健康の保持増進は、児童生徒の「生きる力」を育むために必要不可欠です。指標である「児童生徒のう歯治療率」の実績数値が、小学校・中学校において（特に小学校）、ここ6年間で最も低いことが気になりました。これまで、加須市教育委員会では、小学校におけるフッ素塗布、歯科衛生士による歯磨き指導、学校歯科医と連携を図った歯科保健指導等、歯科保健に積極的に取り組んできたことと思います。その結果、歯科保健コンクール等で優秀な成績

を収める学校が複数見られました。令和7年度における実績数値が低くなってしまった要因を精査していただければと思います。また、児童生徒のう歯治療率だけでなく、もう一つの指標である「児童生徒の朝食摂取率」については、家庭の教育力が大きく影響していると思います。児童生徒の健康の保持増進は、家庭の果たす役割は大きいです。家庭の教育力を高めることは、極めて難しい問題です。保護者の意識を高めるためには、積極的な啓発活動しかないと思います。今後もあらゆる機会を通して啓発活動していただければと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、自ら健康管理ができる資質や能力を高めることができるようにするため、栄養教諭等による朝食の重要性や望ましい食習慣に関する食育の充実を図る。また、チラシやホームページによる家庭への啓発を行い、朝食摂取率の向上を図る。
- ・定期的な食生活調査により、朝食摂取率の実態と経年変化を把握することで、その結果を学校での食に関する指導や家庭への啓発に反映し、学校・家庭が連携して朝食摂取率の向上と望ましい食習慣の定着を目指す。

基本目標4 質の高い教育のための環境づくりを推進します

施策1 安全で安心な教育環境の整備

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

小・中学校の校舎や公立幼稚園、公立保育所の園舎、体育館などの適正な維持管理を行うとともに、老朽化した施設の計画的な改修を行い、安全で快適な教育環境の整備・充実を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s25	2・概ね達成	指標	小中学校施設の大規模改造工事実施率（上段：小学校、下段：中学校）							・安全・安心で快適な教育環境を整備するため、加須市学校施設長寿命化計画に基づき、高柳小学校校舎の長寿命化改良工事のほか、加須西中学校校舎の長寿命化に向けた設計を実施する。
		指標の根拠等	・大規模改造工事実施済棟数(2回目含む)÷大規模改造工事が必要な棟数※×100 ※築後30年以上の棟数及び2回目の大規模改造が必要な棟数の合計 (%)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		51.2 58.8	50.0 52.6	54.3 52.6	57.4 47.6	57.4 54.5		
		実績	51.2 58.8	51.2 58.8	50.0 52.6	50.0 52.6	48.9 47.6	53.2 45.5		
		・安全・安心で快適な教育環境を整備するため、加須市学校施設長寿命化計画に基づき老朽化した礼羽小学校の校舎長寿命化改良工事を実施した。 ・指標の分母となる築後30年以上の棟数及び2回目の大規模改造が必要な棟数が増加したこと及び令和小学校の児童数増加に伴う教室不足を解消する校舎増築工事を優先したことから実施率は低下したものの、目標を概ね達成したのは、加須市学校施設長寿命化計画に基づき計画的に整備を実施したためである。								
課題								・学校施設の老朽化対策が必要となる一方、厳しい財政状況への対応のほか、現在進行中の学校再編を踏まえ、今後の施設需要に応じた効率的な施設整備を計画的に進める必要がある。		

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s26	2・概ね達成	指標	小中学校施設の大規模改造工事実施済棟数（上段：小学校、下段：中学校）							・安全・安心で快適な教育環境を整備するため、加須市学校施設長寿命化計画に基づき、高柳小学校校舎の長寿命化改良工事のほか、加須西中学校校舎の長寿命化に向けた設計を実施する。
		指標の根拠等	・大規模改造工事実施済棟数 （棟）							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		22 10	23 10	25 10	27 10	27 12		
		実績	22 10	22 10	23 10	23 10	23 10	25 10		
		・安全・安心で快適な教育環境を整備するため、加須市学校施設長寿命化計画に基づき老朽化した礼羽小学校の校舎長寿命化改良工事を実施した。 ・目標を概ね達成したのは、元和小学校の児童数増加に伴う教室不足を解消する校舎増築工事をR5・6年度に実施し、礼羽小学校以降を先送りしたものの、加須市学校施設長寿命化計画に基づき計画的に整備を実施したためである。								
		課題								
		・学校施設の老朽化対策が必要となる一方、厳しい財政状況への対応のほか、現在進行中の学校再編を踏まえ、今後の施設需要に応じた効率的な施設整備を計画的に進める必要がある。								

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価(1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている)

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度 of 取組内容	
s27	3・やや遅れている	指標	市立幼稚園の非構造部材の耐震化対策実施率									・未実施の2園の非構造部材の耐震化を実施する。
		指標の根拠等	・非構造部材の耐震化対策実施済園数÷非構造部材の耐震化対策が必要な園数×100						(%)			
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)				
		目標		0	23.1	46.2	69.2	100				
		実績		0	0	0	37.5	75.0				
		・加須幼稚園、礼羽幼稚園、騎西中央幼稚園の非構造部材の耐震化を実施した。 ・目標に及んでいないのは、令和5年度に加須市立幼稚園再編計画を策定し、令和6年度から非構造部材の耐震化を開始したためである。										
課題												
・老朽化が進む幼稚園施設を計画的に整備する必要がある。												

<学識経験者の意見等>

○ 学校は、安全で、安心してすごせる場所でなければなりません。加須市教育委員会では、厳しい財政状況の中、安心して快適な教育環境を整備するため、加須市学校施設長寿命化計画に基づき老朽化した校舎長寿命化改良工事等を実施し、目標を「概ね達成」しているということです。素晴らしいことだと思います。今後も、施設需要に応じた効率的な施設整備を計画的に進め、安全で、安心して過ごせる快適な教育環境を整備していってほしいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・こどもたちの安全・安心かつ快適な教育環境を確保するため、学校施設の計画的な長寿命化改修を推進するとともに、多様な学習活動に対応できる柔軟な学習空間の整備など、これからの学びに必要な施設機能の確保を図っていく。
- ・令和8年度は、水深幼稚園及び北川辺幼稚園の2園における非構造部材の耐震化工事を実施し、対象となる8園全ての園で工事が完了した。今後、施設の老朽化の状況や今後の施設需要を把握しながら、継続して適切な維持修繕を実施する。

施策2 学校ICT環境の適正な管理

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

GIGAスクール構想実現のため、1人1台端末や校内LAN環境などの学校ICT環境を適正に管理します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s28	1・目標を達成	指標	端末整備率							・児童生徒が学習用タブレット端末を利用する機会を確保できるよう、破損や故障が発生した際には速やかに代替機と交換する環境を整備する。
		指標の根拠等	・端末数÷児童生徒数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		100	100	100	100	100		
		実績		100	100	100	100	100		
		・児童生徒の確かな学力と情報活用能力の向上を図るため、埼玉県域での共同調達により、児童生徒及び教職員が授業等で使用する学習用タブレット端末8,604台を更新するとともに、フィルタリングソフトを更新した。 ・教職員の校務を支援し、情報を適切に管理するため、賃貸借契約の満了に伴い、校務用コンピュータ400台を更新するとともに、校務系コンピュータの情報を一括管理する体制を整備した。 ・目標を達成したのは、予備機や教員機を含めた整備を行ったためである。								
		課題							・代替機がすぐに利用できるよう、あらかじめ初期設定を済ませておく等、適切な管理を行う必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s29	1・目標を達成	指標	普通教室に対するアクセスポイント整備率							・引き続き、GIGAスクール構想を推進するため、学級数（普通教室）の増加に対応し、端末を活用した学習に取り組めるよう、無線アクセスポイントを整備する。		
		指標の根拠等	・アクセスポイント数÷普通教室数×100						(%)			
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）				
		目標		100	100	100	100	100				
		実績		100	100	100	100	100				
		・GIGAスクール構想を推進するために、学級数の増加に伴い、中学校2校の普通教室に無線アクセスポイントを整備した。 ・目標を達成したのは、学級数の増加に対応するため、普通教室の整備（エアコン設置や備品整備等含む）に合わせて無線アクセスポイントを整備したためである。							課題 ・学級数の変動を的確に把握し、授業に支障をきたさないよう、無線アクセスポイントを常に過不足なく整備していく必要がある。			

<学識経験者の意見等>

○ 国による「GIGAスクール構想」の実施により、児童生徒1人1台の端末の配布と学校の高速度大容量通信ネットワークの整備が行われました。今後は、「学校ICT環境の適正な管理」が重要になってきます。そのような中、加須市教育委員会では、児童生徒及び教職員が授業等で使用する学習用タブレット端末を更新するとともに、フィルタリングソフトを更新したということです。また、教職員の校務を支援し、情報を適切に管理するため、校務用コンピュータを更新するとともに、校務系コンピュータの情報を一括管理する体制を整備したということです。また、学級数の増加に伴い、普通教室に無線アクセスポイントを整備したということです。素晴らしいと思い

ます。今後も、G I G Aスクール構想を推進するために、学校 I C T環境の適正な管理に努めていただきますと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・児童生徒の情報活用能力のさらなる育成のため、引き続き予備機の運用や代替機との交換を迅速に行い、児童生徒がいつでも端末を活用した学習を展開できる環境の充実を図る。
- ・情報通信技術（I C T）を活用した教育の推進に対応するため、全ての児童生徒が質の高い学びを享受できるよう、引き続き情報通信環境の整備に努める。

施策3 市立学校の適正な配置

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

老朽化した学校施設の計画的な大規模改修を行いつつ、施設の複合化や市立小中学校、幼稚園の適正規模・適正配置を推進します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s30	1・目標を達成	指標	加須市小中学校適正規模適正配置方針							・基本計画の策定に向けて、審議会での協議、骨子案に対する意見募集、素案に対する意見交換会を実施する。 ・審議会からの答申を受け、教育委員会での協議など、必要なプロセスを踏んで進める。
		指標の根拠等	・令和7年度までに策定							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）		
		目標		－	検討	検討	検討	策定済		
		実績	－	－	－	検討	検討	策定済		
		・児童生徒を対象としたアンケート調査や基本方針（案）への意見募集を実施した。 ・寄せられた意見等を踏まえ、令和7年8月に「加須市魅力ある学校づくり基本方針」を策定した。 ・本方針に基づき、再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など、学校再編の具体を示す基本計画について、審議会での協議を進めた。 ・目標を達成したのは、持続可能な魅力ある学校づくりの指針となる「加須市魅力ある学校づくり基本方針」を策定したためである。								
		課題							・基本計画の策定に当たっては、保護者や地域住民の理解を得ることが重要であることから、丁寧な説明や情報発信を適宜行っていく必要がある。	

<学識経験者の意見等>

○ 市立学校の適正な配置に向け、令和7年8月に「加須市魅力ある学校づくり基本方針」を策定したということです。今後は、審議会での協議、骨子案に対する意見募集、素案に対する意見交換会等を実施するということですが、保護者や地域住民の理解を得ることが大変重要です。丁寧な説明や情報発信を適宜行ってほしいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・こどもたちにとってよりよい教育環境の実現に向けた魅力ある学校づくりにおいては、引き続き保護者や地域住民との十分な合意形成を基本に、必要なプロセスを着実かつ丁寧に進める。

基本目標5 家庭や地域で健やかな子どもを育む取組を推進します

施策1 学校・家庭・地域が一体となった絆づくりの推進

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

学校応援団・幼稚園応援団の協力の下、学習支援や学習環境の整備、学校・園と家庭・地域との交流を推進し、地域密着型教育を推進します。

中学校区での学びの連続性を意識した保・幼・小中一貫教育を進め、子どもの健やかな成長を家庭や地域とともに支える取組を推進します。

子育て支援センターや子育てサロン、放課後子ども教室の開催など、地域で子どもを育てていく環境づくりのため、地域の子育て支援機関の支援や児童虐待防止等のネットワークによる見守りなど、地域における子育て支援の体制づくりに努めます。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s31	3・やや遅れている	指標	学校応援団に登録する市民の数							・学校ごとに必要な応援団を精査するとともに、新たな学校応援団に登録する市民の発掘に向けて、学校へ指導・助言を行う。 ・新規登録者を募るために、学校応援団募集のチラシを作成し、市SNSやホームページ等で周知を行う。
		指標の根拠等	・小・中学校の学校応援団登録者数の合計						(人)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		4,300	4,300	4,300	4,300	4,300		
		実績	4,167	3,888	3,210	2,761	2,624	2,612		
		・学校、家庭及び地域が一体となってこどもの健全育成を図るため、全市立学校にふれあい推進員を委嘱するとともに、「学校応援団」の組織化と活動を支援した。 ・各学校の実態に応じた教育活動の充実を図るため、学校応援団による学習支援、学校の環境整備、登下校時の安全確保及び学校・家庭・地域の交流活動等を推進した。 ・目標に及んでいないのは、学校応援団の高齢化等の理由により、登録者数が減少しているためである。							課題 ・学校応援団の高齢化等の理由により、登録者が減少しているため、新たな応援団の発掘に向け、募集方法等を検討する必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s32	4・大幅に遅れている	指標	幼稚園応援団に登録する市民の数							・各園ごとに必要な応援団を精査するとともに、新たな幼稚園応援団に登録する市民の発掘に向けて、幼稚園へ指導・助言を行う。 ・新たな応援団の発掘に向け、募集方法等を検討する。
		指標の根拠等	・公立幼稚園の幼稚園応援団登録者数の合計						(人)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		220	220	220	220※	220※		
		実績	250	226	200	156	79	83		
		・幼稚園、家庭及び地域が一体となって幼児の健全育成を図るため、全市立幼稚園にふれあい推進員を委嘱するとともに「幼稚園応援団」の組織化と活動を支援した。 ・各幼稚園の実態に応じた教育活動の充実を図るため、幼稚園応援団による園内の環境整備や幼稚園・家庭・地域の交流活動等を推進した。 ・目標に及んでいないのは、幼稚園が13園から8園に減少し応援団員数が減少したことに加え、幼稚園応援団の高齢化等の理由により、登録者数が減少しているためである。 ※令和6年度から5園休園中								
		課題 ・幼稚園応援団の高齢化等の理由により、登録者が減少しているため、新たな応援団の発掘に向け、募集方法等を検討する必要がある。								

<学識経験者の意見等>

- 学校、家庭及び地域が一体となって児童生徒の健全育成を図ることは大変重要なことだと思います。しかしながら、学校応援団の高齢化や少子化の進行等により、幼稚園、小中学校とも、その登録者が減少傾向にあるということです。残念ではありますが、この傾向は、ますます深刻になっていくのではないかと思います。今後は、少ない登録者数の中でも、有意義な活動や魅力的な活動をしている学校の情報を市SNSやホームページ等で発信をしたりするなどして、学校・家庭・地域が一体となった絆づくりの推進に努めていってほしいと思います。
- 学校及び幼稚園応援団による学校の教育活動への協力は、地域密着型教育の推進を図っている加須市にとってその推進に大きな役割を果たしていると思います。現在、応援団員の高齢化により、登録者数が年々減少しているようであり、応援団員の登録者数を増やすことが課題となっているようです。今後、登録者数を増やすためには、学校応援団登録のハードルを低くすることが良いと思います。保護者及び地域の方にとって負担感の少ない協力して欲しい事柄を各学校・幼稚園が洗い出し、それらに取り組んでいただく。こうすることで、気軽に応援団に登録できるようになることはどうでしょうか。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ こどもたちの地域への愛着と社会貢献の意識を育み、地域社会の持続的な発展に貢献する人材の育成を推進するため、学校運営協議会の伴走支援と機能強化を図る。
- ・ 学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、目標を共有しながら連携・協働する地域密着型教育を推進するため、学校応援団・幼稚園応援団の活動についてホームページやSNS等を活用し広く発信し、登録者数増加を図る。

施策2 子どもの健やかな成長の支援

※ 市長部局が所管する分野であるため除く

施策3 青少年の健全育成の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

地域で子どもを育てる機運の醸成と地域の教育力の向上を図るため、各地域で活動する青少年健全育成団体や地域ボランティアとの連携を一層強化し、地域と一体となった青少年の健全育成を推進します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s36	3・ やや遅 れてい る	指標	少年の主張、講演会の観客来場者の延べ人数							・加須市少年の主張大会へたくさんの市民に来場していただくため、青少年関係団体をはじめ、幅広い情報発信に取り組む。 ・開催のPR方法を加須市青少年育成市民会議と協議する。
		指標の根拠等	(人)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)		
		目標		600	600	600	600	600		
		実績	0	0	201	280	330	398		
		・少年が日常生活を通じて日ごろ考えていることを広く市民に訴えることにより、少年に対する理解を深めるとともに、家族や仲間との絆を深め、青少年の健全育成を推進するきっかけづくりのために、加須市少年の主張大会を開催した。 ・目標に及んでいないのは、発表する児童生徒の保護者や学校関係者以外の来場者がなかなか増えにくかったためである。							課題 ・少しずつ来場者は増えているが、さらなる来場者増を図るため、きめ細かい情報発信の工夫が必要である。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和８年度の取組内容	
s37	1・目標を達成	指標	非行防止に取り組む地域活動実施延べ回数							・各団体ごとに、協働してこまめな活動による青少年の見守りを行う。
		指標の根拠等							(回)	
		年度	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度 (決算)		
		目標		7,500	7,500	7,500	7,500	7,500		
		実績	6,512	7,705	7,700	7,787	8,339	8,389		
		・青少年が犯罪に巻き込まれることを防ぐため、各種団体による街頭パトロールなどの見守り活動を実施した。 ・目標を達成したのは、自治会、青少年関係団体などが積極的に活動したことによるものである。								
									課題 ・季節や時間帯により、見守り活動する方の安全面に配慮が必要である。	

<学識経験者の意見等>

○ 「加須市少年の主張大会」の入場者について、目標に達しなかったのは、発表する児童生徒の保護者や学校関係者以外の来場者がなかなか増えにくかったためであると分析していますが、毎年微増していることは、評価できると思います。今後とも、きめ細かい情報発信に努めていただきたいと思います。また、非行防止に取り組む地域活動については、自治会や青少年関係団体などの協力を得て、目標を達成したことは素晴らしいことだと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・「加須市少年の主張大会」については、発表者が令和7年度に続き令和8年度も県表彰を受賞しており、その華々しい成果を、市民に向けて積極的に情報発信する。
- ・非行防止に取り組む地域活動については、今後とも、自治会や青少年関係団体などと協働し、青少年が犯罪に巻き込まれるのを防ぐ活動を積極的に行う。

基本目標6 生涯にわたる学びの支援や芸術・文化の振興を図ります

施策1 生涯学習活動の推進

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

市民一人ひとりの学習ニーズに応じた学習機会を提供するとともに、市民が生涯学習活動で学んだ知識や経験を地域社会に活かせる仕組みを整え、市民の生涯学習活動を推進します。

生涯学習の場として、生涯学習関連施設が連携し、それぞれの機能を生かした幅広い事業展開を推進して市民の学習機会を充実します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s38	1・目標を達成	指標	市民学習力レッジの受講率							・市民が受講したいと思う講座が企画できるよう、生涯学習市民企画委員による講座の企画をサポートする。 ・生涯学習市民企画委員の応募数の増加を図るため、その活動内容を広く紹介する。 ・「JAXA親子バスツアー」や一般向け宇宙教育講座を実施する。
		指標の根拠等	・受講者数÷定員数×100						(%)	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		80	80	80	80	80		
		実績	0	83	81	83	84	89		
		・市民一人ひとりの生涯学習を通じた学習参加のきっかけづくりのため、生涯学習市民企画委員と協働しながら、他課との共催も含め51講座を実施した。 ・目標を達成したのは、生涯学習市民企画委員が講座の企画運営等を行うことにより、ニーズにあった講座を開催したことで、受講率が向上したためである。								
		課題							・的確な学習機会を提供し、生涯学習活動を支援するため、引き続き情報収集に努める必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s39	3・やや遅れている	指標	シニアいきいき大学の受講定員							・平成国際大学と連携し、受講生に専門的な学習の場を提供する。 ・新学部の開設等も含め、シニアいきいき大学の運営の在り方を検討する。 ・「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書」の学識経験者意見に、指標を「定員」から「満足度」に変える提案をいただいたことから、受講生にアンケート調査を実施した。
		指標の根拠等	・自然科学部50人 ・人文科学部90人 ・社会科学部90人 (人)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)		
		目標		230	230	230※	230※	230※		
		実績	91	99	106	142	117	117		
		・60歳以上の市民が健康で主体的に学習し、自発的な学習活動を促進する機会を平成国際大学と連携して実施した。 ・平成国際大学からの定員削減要請（駐車場不足）を受け、各部の定員を50名程度としたことから、目標には及んでいないものの、毎年、定員を大きく上回る申込がある。 ・毎年、2学部開講し、各10回の講義への出席率は約80%。 ※令和5年度から平成国際大学からの定員削減要請あり								
		課題 ・平成国際大学と連携、協議しながら、市民のニーズや社会的課題に対応した講義内容を充実させる必要がある。								

＜学識経験者の意見等＞

○ 「市民一人ひとりの学習ニーズに応じた学習機会を提供するとともに、市民が生涯学習活動で学んだ知識や経験を地域社会に活かせる仕組みを整え、市民の生涯学習活動を推進します。」という目標に向かって、「市民学習力レッジ」では、生涯学習市民企画委員と協働しながら、市民のニーズにあった多くの講座を開講し、その受講率が向上しています。素晴らしいと思います。次年度

に向けても、魅力ある講座が新設される予定とのことです。期待をいたします。また、「シニアいきいき大学」については、受講定員に対しての受講者数が目標に達していないことから低い評価になっているようです。しかし、その理由が、大学側からの要請で定員の削減を行っているということです。目標を変えて、評価すべきだと思いますが、いかがでしょう。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・「市民学習カレッジ」については、市民一人ひとりの学習ニーズに応じた学習機会を提供するために、企画の支援を強化し、講座の一層の充実を図る。
- ・「シニアいきいき大学」については、学識経験者の意見等を踏まえて指標を見直すとともに、市民ニーズに応じ、かつ受講者が学んだ知識を地域社会に活かせる講義を開講するため、平成国際大学と連携・協議しながら講義内容を計画する。

施策2 芸術文化の振興

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

市民一人ひとりの豊かな感性・創造力をもった芸術文化の振興を図るため、青少年・高齢者・障がい者をはじめ、あらゆる市民の主体的な文化創作活動を支援するとともに、市民の誰もが優れた芸術文化に触れる機会の充実に努めます。

郷土の偉人を顕彰することにより、市民が地域の一員であることを再認識し、市民としての誇りや「ふるさと加須市」への愛着心を育みます。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s40	3・ やや遅 れてい る	指標	各地域文化祭の来場者数							・市民が芸術文化を鑑賞、発表できる機会を確保する。 ・文化祭への参画を促すため広報等での募集や、文化祭に参加したことのないサークルなどへ呼び掛けをする。 ・クラシックカーの展示など新たなジャンルを設け、ミドル層の来場を促進する。
		指標の根拠等	・各地域文化祭の延べ来場者数 (人)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)		
		目標		20,500	20,600	20,700	20,800	20,900		
		実績	0	0	14,000	14,500	12,742	15,840		
		・実行委員会により4地域すべてで文化祭を実施し、市民が芸術文化に触れる機会や、創造性の育成及び芸術文化の振興の場を創出した。 ・目標に及んでいないのは、前年度よりは来場者数は増加したものの、参加団体が減少傾向であることも影響したためである。								
課題										
・来場者の増加のためにも、参加者の増加を図る必要がある。										

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s41	1・ 目標を 達成	指標	偉人パネル展開催回数							・斎藤与里をはじめとする郷土の偉人の資料整理等を進め、「加須の偉人」パネル展等により郷土の偉人を市内外に周知する。 ・斎藤与里展とこども美術展覧会inKAZOの合同開催会場（サトエ美術館）に偉人パネル展のコーナーを設ける。 ・各文化・学習センターにおいて、偉人パネル展を開催する。
		指標の根拠等	・イベントにおける偉人パネル展の実施回数 (回)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)		
		目標		8	8	8	8	8		
		実績	1	2	6	8	9	9		
		・郷土愛の醸成と芸術・文化の向上を図るため、郷土の偉人を顕彰する偉人パネル展を実施した。 ・目標を達成したのは、イベントの機会をとらえてパネル展を実施したためである。								
		課題							・パネル展の開催場所の開拓が必要である。	

<学識経験者の意見等>

- 実行委員会により4地域すべてで文化祭を実施し、市民が芸術文化に触れる機会や、創造性の育成及び芸術文化の振興の場を創出したことは素晴らしいことだと思います。前年度よりは来場者数は増加したものの、参加団体が減少傾向であるということですが、次年度に向けては、新たなジャンルの展示企画も検討中のようです。大いに期待いたします。また、郷土愛の醸成と芸術・文化の向上を図るため、郷土の偉人を顕彰する偉人パネル展を数多く実施したことは素晴らしい

ことだと思えます。次年度に向けては、斎藤与里展とこども美術展覧会 inKAZO の合同開催会場（サトエ美術館）に偉人パネル展のコーナーを設ける企画を準備中とのこと、大いに期待します。

○ 加須市の広報やホームページ、ライン等により、様々な文化芸術活動開催のお知らせが届いており、加須市及び加須市教育委員会が、積極的に芸術文化の振興に取り組んでいることが伺えます。指標「各地域文化祭の来場者数」においても、目標値に対して実績値が低いものの、着実に来場者数は以前に比べ増えている現状であり、良い傾向と思います。令和8年度は、地域文化祭において新たな企画が予定されているとのことですので、来場者の増加が期待できます。また、参加団体の開拓にも取り組むとのことですので、引き続き努力していただきたいと思います。指標「偉人のパネル展示回数」については、目標が達成されており、素晴らしいと思います。展示するにあたり、準備が容易であれば、さらに展示回数を増やしても良いかと思います。開催場所については、様々なイベントとタイアップすることで、より多くの市民の方に周知が図られるかと思えます。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・文化祭の来場者数の増加を図るため、各地域文化祭に向けて、SNS等を活用し幅広い世代を対象にきめ細かく周知を図る。
- ・市民の郷土への誇りと愛着を育むため、斎藤与里をはじめとする郷土の偉人に関する資料の整理を進めるとともに、サトエ美術館や各文化・学習センターで「加須の偉人」パネル展等を開催し、その功績を市内外に広く周知する。

施策3 文化財の保存継承による郷土愛の醸成

＜施策のねらい・目的＞ ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

郷土加須市の歴史を伝える文化財を適切に保存し、次世代へ継承します。

考古資料は騎西郷土史料展示室（騎西城）を核とした施設に集約し、水辺に関する民俗資料は北川辺郷土資料館を核とした施設に集約して保存し、展示公開します。

民俗芸能の伝承支援や文化財、歴史資料の調査・公開・展示を行うことで、市民が文化財に親しみ、その価値を深めていけるよう取り組むとともに、郷土愛の醸成と地域の活性化を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析					令和8年度の取組内容	
s42	1・目標を達成	指標	インターネット博物館のアクセス回数							・インターネット博物館のアクセス回数を増やすため、既存のコンテンツを見直し、掲載する資料の拡充に取り組む。
		指標の根拠等	・掲載資料調査 ・掲載資料データ作成、情報更新 ・加須インターネット博物館管理運営 (件)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)		
		目標		10,880	13,200	13,300	13,400	13,500		
		実績	14,557	15,490	19,377	21,000	21,014	17,565		
		・市民が郷土の歴史・文化に親しみ、郷土への理解を深めるため、インターネット上に構築した博物館に文化財や歴史資料を公開し、広く発信した。 ・目標を達成したのは、スマートフォンでも見やすいインターネット博物館に改修した効果が出たためである。							課題 ・新たな文化財マップの積極的な周知を行う必要がある。	

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容	
s43	1・目標を達成	指標	郷土資料館の来館者数							・郷土に対する理解や愛着を深めるよう郷土史の学習機会を提供するため、適切な管理を行い、適宜展示替え等を実施する。
		指標の根拠等	・北川辺郷土資料館の延べ来館者数+騎西郷土史料展示室の延べ来館者数 (人)							
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)		
		目標		3,420	3,440	3,460	3,480	3,500		
		実績	240	1,178	3,295	5,974	8,802	9,814		
		・騎西郷土史料展示室及び北川辺郷土資料館において、社会科の授業の一環として小学校の見学等を受け入れた。 ・目標を達成したのは、騎西郷土史料展示室において令和6年度から土日祝日の一般開館を行っており、騎西のイベント時などで多くの来館者があったためである。								
		課題							・来館者数の増加のため、学校への積極的な周知も必要である。	

＜学識経験者の意見等＞

○ 市民が郷土の歴史・文化に親しみ、郷土への理解を深めるため、インターネット上に構築した博物館に文化財や歴史資料を公開し、広く発信したということです。さらに、今年度は、スマートフォンでも見やすいインターネット博物館に改修したところ、そのアクセス数が増加したということです。関係者の工夫と努力に敬意を表します。また、騎西郷土史料展示室及び北川辺郷土資

料館において、社会科の授業の一環として小学校の見学等を受け入れたこと、騎西郷土史料展示室において令和6年度から土日祝日の一般開館を行ったことにより、来館者数が大幅に増加したということです。関係者の工夫と努力に敬意を表します。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・北川辺郷土資料室の来館者数を増加させるために、市民に向けて展示内容やアクセスについて周知する。

施策4 読書活動の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

子どもが自主的な読書活動ができる環境を整備し、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図り、子どもの読書活動がより一層活発になるような取組みを推進します。

図書館サービスに関する市民の多様なニーズに対応するため、図書資料の収集・提供に努め、市民一人ひとりの生涯にわたる自主的、自発的な学習をはじめ、地域の課題解決や地域振興を支える知の拠点として図書館サービスの充実を図ります。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s44	1・目標を達成	指標	ブックトークの年間実施回数							・ブックトークを含んだ「学校連携サービス」の利用について周知を行うとともに、未実施の学校に対する積極的な働きかけを行う。	
		指標の根拠等	・小中学校でブックトークを実施した回数						(回)		
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度(決算)			
		目標		24	25	26	27	28			
		実績	3	17	31	55	42	38			
		・子どもたちに本を読むことの楽しさを伝えるとともに、自主的な読書活動を支援するために、図書館職員が各学校に出向いて「ブックトーク」を実施した。 ・目標を達成したのは、ブックトークを含めた「学校連携サービス」についての周知を積極的に行ったためである。							課題 ・目標は達成したものの、ブックトーク実施校は減少傾向にあることから、未実施の小中学校に対して「ブックトーク」の目的や効果を周知することによって実施に繋げていく必要がある。		

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No		評価		成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s45	3・やや遅れている	指標	市民一人当たりの図書の貸出冊数							・魅力あるテーマを基にした図書資料の展示を行う。 ・市長部局を含めた行政情報を積極的にPRし、関連図書の貸出冊数の増加を図る。 ・従来のバリアフリー図書コーナーを「りんごの棚」としてリニューアルし、バリアフリー図書の更なる充実と利用促進を図る。 ・市SNSを活用した図書館に関するイベント開催等の情報提供を実施する。 ・市民の多様なニーズに対応した図書館資料を購入する。	
		指標の根拠等	・図書（雑誌含む。）の年間貸出冊数÷人口（4月1日現在）						（冊）		
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（決算）			
		目標		5.1	5.2	5.2	5.3	5.3			
		実績	3.27	4.18	4.06	3.96	3.76	3.63			
		・市民の読書活動を推進するために、多様なニーズに対応しながら幅広く図書館資料を購入する等、蔵書の充実を図った。 ・目標に及んでいないのは、各図書館において魅力あるテーマを基にした各種展示や、市SNSを活用して「おはなし会」等のイベントに関する情報発信を行ったことにより、令和6年度比で来館者数は増加したものの、結果として貸出冊数の増加に繋がらなかったためである。							課題		
							・来館者数及び貸出冊数の増加を図るために、市民の多様なニーズに対応した蔵書の充実や、こども司書及びおはなし会ボランティア団体と協働したイベントの開催等によって、図書館の魅力を広く周知する必要がある。				

<学識経験者の意見等>

- 若者の活字離れが叫ばれる中、児童生徒に対して、読書のきっかけづくりや読書活動の習慣化を図ることは、大変重要なことだと思います。そのような中、加須市教育委員会では、児童生徒に本を読むことの楽しさを伝えるとともに、自主的な読書活動を支援するために、図書館職員が各学校に出向いて目標回数を上回る「ブックトーク」を実施したということです。今後は、未実施

の小中学校の管理職に対して「ブックトーク」の目的や効果を周知することによって実施に繋がってほしいと思います。

<今後の施策の方向性・展開>

- ・ こどもたちに本を読むことの楽しさを伝えるとともに、自主的な読書活動を支援するために、図書館職員が各学校に出向いて「ブックトーク」を実施する。
- ・ ブックトークを含んだ「学校連携サービス」の利用について周知を行うために、未実施の学校に対して積極的な働きかけを行う。

施策5 人権教育の推進

<施策のねらい・目的> ※第2次加須市人づくりプラン（令和3年3月）から抜粋

家庭・学校・職場・地域社会等の様々な場面で起こりうる人権問題の解決のために、人権教育や啓発活動を行い、差別や偏見のない人権尊重の社会の実現を目指します。

【施策の数値目標】

【評価】は4段階評価（1目標を達成、2概ね達成、3やや遅れている、4大幅に遅れている）

No	評価	成果・目標指標 指標に関する決算年度の取組内容及び評価に対する分析							令和8年度の取組内容
s47	3 ・ やや遅れている	指標	人権教育推進事業への延べ参加者数						・実績値と目標値が乖離しているため、目標値の見直しをする。また、小中学生学級の参加者が減少しているため、集会所のあり方や事業の開催方法等の見直しを図る。
		指標の根拠等	・小中学生学級、成人学級、集会所交流事業、移動学習会、コミュニティセンター人権教育講座の参加者数 (人)						
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度 (決算)	
		目標		6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	
		実績	1,886	533	2,416	3,386	2,834	3,566	
		・豊かな人権感覚を身につけ、人権問題についての正しい理解と認識を深めていただくため、各種の講座や学習会を実施した。 ・各コミュニティセンターでの人権講座の参加者増などもあり、全体の参加者数は前年よりも増加した。 ・目標に及んでいないのは、活動が縮小し参加者が減少した地区もあったためである。							
		課題 ・集会所及び小中学生学級のあり方を検討する必要がある。							

<学識経験者の意見等>

- 小中学生学級、成人学級、集会所交流事業、移動学習会、コミュニティセンター人権教育講座、それぞれの学習機会の参加者数はどのようになっているのでしょうか。小中学生学級の参加者数の減少が、全体の参加者数を押し下げているのでしょうか。原因分析を詳細に行いながら、課題解決につなげていく必要があるのではないのでしょうか。

<今後の施策の方向性・展開>

- それぞれの学習機会の参加者数は、小中学生1,695人、成人学級1,120人、集会所交流事業386人、移動学習会48人、コミュニティセンター人権教育講座317人であり、いずれの学習機会においても参加者は微増傾向にある。引き続き、参加者のニーズをとらえた実施内容を検討し、参加者の増加に努める。また、実績値と目標値が乖離しているため、目標値も含めて見直しを図る。

6 おわりに

加須市教育委員会では、令和3年度から「第2次加須市人づくりプラン」に基づき、「家族・地域の絆を大切に、生きる力を醸成する」を基本理念に、令和7年度までの5年間に取り組む7つの基本目標と26の施策を設定し、本市教育の振興に取り組んでまいりました。

令和7年度は、このプランに位置付けられた施策ごとに設定した53指標の中から、教育委員会の権限に属する43指標を対象に点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成いたしました。

今回、平成国際大学教職支援センター特任教授の荻原孝之氏及び前加須市立教育センター所長の駒宮一彦氏の2名の学識経験者から貴重な御意見をいただきました。これらの御意見を生かしながら、自己評価に対する分析を踏まえ、今後の取組の改善につなげてまいります。

最後に、点検評価に当たり、貴重な御意見を頂きました学識経験者の方々に、心から御礼申し上げます。

令和8年9月
加須市教育委員会